

日本王代一覽

七

り 5
5155
7

30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

日本王代一覽卷之七

國錄

百
後花園院

在位卅六年

永亨十二。嘉吉

三。文安

五。寶德

三。亭德

三。康正

二。長祿

三。寬正

二。

五。

百
後土御門院

在位卅六年

自寛正六。文正
應仁。文明

十八。長亨

二。延

德三。

明應九。

文龜三。

永正下

七。大末

六。

治三

百
後柏原院

在位凡六年

自大永七。亨祿

四。

天文九。弘

百
後奈良院

在位卅一年

自大永七。亨祿

三。

弘治三

百
正親町院

在位凡九年

永祿十。元龜

三。沃正十四。

本王代一覽卷之七

百三代

後花園

諱ハ彦仁。崇光院ノ曾孫ナリ。崇光院ノ子

ヲ榮仁親王ト云。大通院ト號ス。大通院ノ子ヲ無
品親王貞成ト云。即、是彦仁ノ父ナリ。母ハ敷政門
院贈左大臣經^チ有力娘也。觀應ノ乱ニ崇光院南方
ニ囚レ給テ。御弟後光嚴即位ニシテ。崇光院ハ。南
方ヨリ歸^カタヒテ。後伏見殿ニウツリニシテ。時明
院殿ノ皇統ノ嫡流ナルユ。後光嚴院、次ノ御位ニハ。
榮仁親王ヲト。崇光院ヲホレメスト云。トモ武家許
容^ヨナキニヨリテ。後圓融後小松稱光相續^{シカク}レタヘハ
伏見殿ニハ。崇光院ス。テニ崩御アリテ。榮仁ノ時ニ

日本王代一覽卷之七

百三代

後花園

一石鏡、二寶珠

三通鑑、四寶珠

五、六、七、八、九

十

至テ。御領モ減少。應永二十三年。榮仁薨ス。貞成
其跡ヲ續。テ弥襄微ス。サレドモ後小松上皇ノ仰ニ
テ無品親王ニ宣下セラハ。稱光院逆鱗ニヨリテ。貞
成剃髮シテ道欽ト号ス。

正長元年。称光院不列儲。君ナキニヨリテ。七月十
二日。世尊寺宮内郷行豊。伏見へ赴。道欽ニ逢テ
室町殿源義宣ノ旨ヲ述テ。亥仁出京アル。キ由ヲ
告。キカレメ。翠日管領。島山滿家入道。道端力手ノ
者トモ四五百人。御迎ニ來。東山若王子へ入御
マレ。赤松左京大夫滿祐警固。武家ヨリニ
條閑白持基ラ以テ。後小松上皇へ申。亥仁ヲ御
養子ニ定メラル。十七日。若王子ヨリ仙洞へ参タニ
トナル。

フ。月。卿雲客數蠶供奉。島山滿家。其子尾張守
持國路。次ヲ警固ス。二十日。称光院崩ス。二十九日。
亥仁践祚。時十歳。閑白持基攝政。同年十二月。
南方ノ小倉殿トテ。吉野ノ帝ノ末嵯峨ニラワセシガ
帝位ヲ望ニソカニ伊勢ヘ逃下。彼國司ヲカタラニ
兵ヲ起ス。土岐興安ト戰。國司ハ討レス。小倉殿ハ
降参シ。又嵯峨ニ住ス。其子ハ勸修寺門跡ノ弟子
トナル。

永享元年三月九日。左馬頭源義宣室町殿ニテ
元服。島山尾張守持國加冠タリ。義宣時ニ三十六
歳ナリ。同月十五日。義宣參議ニ任。左中將
ヲ兼テ。征夷大將軍ニ補。名ヲ義教ト改ム。同

月二十三日。義教參內院參。二十九日。權大納言
ニ任ス。從三位ニ叙ス。四月。義教公家様ノ判始
アリ。八月。義教石清水詣。同月。義教奉行人
ノ規式ヲ定メ。諸國關所ノ沙汰アリ。斯波右兵衛
督義淳管領再任。同月。攝政持基左府ヲ辞ス。
一條右府兼良左府ニ任ス。近衛内府房嗣右府ニ
任ス。久我大納言源清通内府ニ任ス。義教右大
將ニ任。九月。義教日吉春日參詣。十二月。義
教從二位ニ叙。同月。御即位ノ禮行ル。

二年正月。義教馬齋御監トナル。十月。義教從
一位ニ叙ス。同月。御禊行幸。右大將義教供奉
同月。遺錄伏見ヨリ來。方義教ニ謁ス。義教并百

官伏見ニ往テ賀ス。十一月。大嘗會
三年二月。義教伊勢參宮。三月。後小松上皇落
飾。四月。義教高野參詣。十二月。義教室町ノ
新亭ヲ營テ移住フ。

四年三月。義教信濃ノ小笠原政康ヲ弓ノ師トス
七月。攝政持基太政大臣ニ任ス。明年。主上元服
加冠スヘキニヨリテナリ。源清通内府ヲ辞ス。義教
内府ニ任ス。八月。持基攝政ヲ辞ス。一條左府
兼良攝政トナリテ左府ヲ辭ス。義教左大臣ニ任
ス。右大將元ノ如大炊御門大納言信宗内府ニ
任ス。九月。義教富士山見物駿河ニ赴ク。國主
今川範政迎接ス。飛鳥井中納言雅世并法印堯

孝等モ供奉倭歌アリ。或説ニハ義教此時ステニ
鎌倉ヲ滅^{サシテ}ノ志アリ。故ニ富士丁見ニ事寄^テ
関東ノ事ヲ見聞^シヘナリト云リ。十月、兼良
攝政ヲ辞ス。一條持基再攝政。十二月、義教大
臣拜賀鷹司^名大納言房平等扈從^シ。同月、義教殿
上別當院大別當ニ補^ヒ。淳和弊學兩院別當源
氏^名長者タリ。牛車ヲ聽^カ。今年細川右京大夫持
之管領ニ任ス。同年、使者ヲ大明ヘ使ス。朝鮮人
來朝。

五年正月、主上十五歳元服。一條攝政相國持基
加冠タリ。左大臣源義教理髮タリ。後小松上皇
元服ノ時、一條良基加冠^シ。麻苑院殿理髮ノ例也。

二月、持基相國ヲ辞^シ。三月、復辟^シテ。關白
トナル。四月、義教自筆^シニ應神神功縁起^ヲ書シ
テ河内譽田八幡官^ニ納ム。六月、大明ノ宣宗皇
帝書簡ヲ義教ニ寄^テ。日本國王源義教ト書^セリ。
八月、義教大將ヲ辞ス。十月、後小松法皇崩^ス
年五十七。

六年五月、唐船來朝。

七年四月、鷹司大納言房平内府ニ任ス。八月、山
門^ガ訴ノ事アリテ。日吉神輿動座^シ。義教武士ヲシテ
轟山ヲ攻^シム。

八年信濃國守護小笠原政康^ト。同國ノ士村上
縣^ト。確執^シアリテ合戰ニ及ブ。村上加勢ヲ鎌倉ニ蒲

ケレバ。持氏許容レ。桃井ヲ大將トレ。スデニ出陣せシメ
シトス。上枚安房守憲實聞テ。信乃ハ。関東ノ領ニア
ラス。京都將軍ノ御下知タルヘニ。持氏ノイロヒ如何ト
申ニヨリテ止ス。勝定院殿。義持薨スル時。繼嗣ナキ
エヘ。持氏入洛レ。將軍タラント思レニ。義教還俗レ。
武將タルユヘ。持氏常ニ不快ニテ。京ヲ攻トス。憲實
時々諫ルニヨリテ。其君臣ノ間睦レカラス。

九年四月。鎌倉持氏密ニ上枚憲直一色直兼ラ
シテ。上枚憲實ヲ討シム事アラハレテ。鎌倉騒動ス。
持氏自ラ憲實カ山内ノ宅ヘ趣テ。和解シ。憲直直
兼鎌倉ヲ追出サレテ。暫無屬ナ。十月廿二日
義教館ヘ行幸。賈白以下。百官。僧供奉。詩歌管絃
ノ御遊アリ。廿六日還幸。

十年八月。飛鳥井中納言藤原雅世。新續古今倭
歌集ヲ。卷覽ス。古今後撰。拾遺。後拾遺。金葉。詞花
千載。新古今ヲ。八代集。十二云。其事既ニ。上ニ見ヘタリ。
八代集ノ後ニ。後堀河院ノ時。藤原定家。新勅撰
ヲ撰レ。後嵯峨院ノ院宣ニテ。藤原爲家。并藤原光俊等五人續古今
ノ同院ノ仰ニテ。爲家并藤原爲家續。後撰ヲ撰レ
ヲ撰レ。龜山院ノ仰ニテ。藤原爲氏續。拾遺ヲ撰レ
後宇多院ノ仰ニテ。藤原爲世新後撰ヲ。撰レ伏見
院ノ仰ニテ。藤原爲兼玉葉集ヲ。撰レ。後宇多院ノ
仰ニテ。藤原爲世。又續千載ヲ。撰レ。後醍醐ノ謁
ニテ。藤原爲藤。其子爲定。續後拾遺ヲ。撰レ。花園

院自風雅集ヲ撰ス。後光嚴ノ詔ニテ藤原爲定新
千載ヲ撰ル。同時藤原爲明新拾遺ヲ撰ル。後圓
融ノ勅ニテ藤原爲遠。藤原爲重。新後拾遺ヲ撰ス。
今新續古今ヲ加テ。二十一代集ト号ス。同月
義教左府ヲ辭ス。九月近衛右府房嗣左府ニ
任ス。鷹司房平右府ニ任ス。西園寺大納言公名内
府ニ任ス。今年六月鎌倉持氏ガ長男賢王丸
元服ノ沙汰アリ。先例ニカセ京都將軍ノ諱ノ字
ヲ受ラレ然ベレト。上松安房守憲實申ケレトモ許容
ナク。遠ク義家ノ例ヲ追ベレト。鶴岳八幡ニテ元
服セシメ。義久ト号ス。憲實來テ賀セハ。即誅スベレト
議。ス憲實病ト稱セテ。其弟重方ヲレテ賀セレヒコレ

ヨリ上下爭鬭。和睦ドノホテス。八月持氏
兵ヲアツメニ山ノ内ヲ攻トス。憲實自害セントス。其家
人ノ抑留。ニヨリテ山ノ内ヲ出テ。上野ノ國へ赴テ。此
離京都ヘ申ス。持氏スナハチ丁色直兼。一色時家ヲ
シテ。憲實ヲ攻レメ。持氏モ鎌倉ヲ出。武州高安寺ニ
陣ス。二浦介時高ヲ鎌倉ノ留守トス。十月京都
ヨリ義教ノ御教書ニ輪旨ヲ添テ。持氏追詣スヘキ由
憲實ニ命セラレ。三浦介并。関東ノ武士ニモ。其旨ヲ
相觸ラル。又上松中務少輔持房ニ旗ヲ授ケ。海道ノ
兵ヲ催ル。鎌倉ヲ攻シ。今川上総介範忠并ニ小笠
原政康武田信重等以下發。向ス上松治部大輔
教朝。北陸道ヨリ進發ス。持房教朝ハ。禪秀ガ子

ナリ。関東ノ武士持氏ニ背モノ多シ。三浦時高モ謀叛レ。却テ鎌倉ヲ放火ス。持氏武州海老名ニ陣シテ上松憲直ヲ邀シテ。京勢ヲ防シム。相模早河庵ニテ合戦。憲直敗軍。京勢箱根ヲ越テ進ハ。持氏重テ木戸持季ヲ遣シテ防シム。一色直兼時家モ。憲實ニ打負テ。海老名ヘ皈ル。憲實上野ヲ出テ。武州分倍ニ陣ス。十一月。三浦持高等鎌倉ヲ攻テ。義久ヲ生虜。扇谷ニ押籠タリ。持氏せん方ナク。憲實ニ和睦ヲ乞ケレバ。憲實ガ家老長尾芳傳來テ。持氏ヲ伴テ。鎌倉へ赴テ。永安寺へ入テ。持氏剃髮ス。芳傳ノレテ。上松憲直。一色直兼ヲ攻撃シム。此二人公憲實ヲ謾スル張本ナリ。其外憲實ニコロヨカラテ。サル

輩皆殺サル。持氏ヲ上松持朝千葉介胤直。大石憲儀等ヲレテ警固せしメ。使ヲ京都へ遣シテ。持氏死罪一等ヲ宥メシト講フ。

十一年二月。持氏叛逆ノ罪赦免ナリ。ガタキ旨。義教ヨリ憲實ニ命セラル。上松持朝千葉胤直。永安寺へ發向。持氏自害。年四十二。長春院ト号ス。其叔父浦貞モ同ク自害。近習者皆討死ス。義久ハ報國寺ニテ自害。基氏觀應ノ比ヨリ。東國ヲ領せシヨリ。持氏ニテ四代ノ間。九十年ニ及ヘリ。關東皆憲實二十ヒキケレ。ハ推テ鎌倉ノ管領ト称ス。然レ庄憲實君ヲ弑スルノ罪免レガタシト思テ。剃髮シテ長棟十号。其弟兵庫頭清方ヲ。越後ヨリ鎌倉へ

呼寄テ。管領ヲ譲ル。六月、憲實長壽院ニ赴テ。
持氏景前ニテ自害。家人其刀ヲ奪ニヨリテ未死。
療養シテ愈ス。十一月、憲實遂ニ山内ヲ出テ藤
沢ノ道場ヘ入テ。其ヨリ伊豆ノ國清寺ニ閑居
十二年春、持氏ガ二男春主三男安王ト云ルア
リ。持氏自害ノ時密ニ下野國日光山ヘ逃隠ケル
ヲ。小笠原政康等山ヘ入テ尋ケレバ。二人トモニ日
光ヲ逃出テ。結城中務大輔氏朝ヲ懸ケレバ。氏朝
許容。其子七郎光久ヲ遣テ春王安王ヲ城へ
迎入テ。持氏舊婦ノ者ヲカタラヒケレバ。來アツル
者多レ。又古河城ニモ兵ヲ籠置テ守レ。今此事京
都ヘ聞ケレバ。義教御教書ヲ憲實ニ賜テ。結城ヲ攻
シ。憲實辭退。石濱方山内ノ名代トシテ。扇谷ノ上
校修理大夫持朝ト。鎌倉ヲ出テ結城ヘ。後向る京
都ヨリ上杉中務少輔持房旗ヲ賜テ。下向ス。憲
實モ義教ノ命ヲモキニヨリ。伊豆ヨリ下野國小山
ニテ出陣ス。清方持朝。關東勢ヲ率ニ持房京勢ヲ率
テ。七月ヨリ結城カ城ヲ圍テ合戦ス。俗ニ是ヲ結
城戦場ト云。十月近衛左府房嗣子教基元服。
義教加冠シテ。諱ノ字ヲ授ラル。
嘉吉元年二月畠山尾張守持國從三位ニ叙。各
管領公三家共四位ヲ以テ先途ト。持國猶三品
ニ昇進ス。斯波義重從三位ニ叙スル由系圖ニアリト
云。氏公解捕任ニハミヘス。三月義教八幡參詣。

四月十六日。上放清方等諸軍ヲ進メ。結城ガ
城ヲ攻火ヲ放テ燒ケレバ城遂ニ攻落サル。古河城
モ没落ス。結城氏朝父子討死ニ。殺サル者、一萬人
ニ及ヘリ。春王安王ハ女ノ姿ニテ。輿ニノセ城ヲ出テ
ケルヲ。長尾因幡守コ一ヲ生孺^{タツ}ナハ子因幡守ヲ
警固トシテ上洛セシム。氏朝以下張本ノ頸二十九
京へ送リ遣ス。五月春王安王、美濃垂井ニ到ル
時。京都ヨリ佐々木某檢使トシテ下向シ。因幡守
三命ジテ。一人共ニ害セシム。春王時二十三歳。安王
八十一歳ナル。安王カ弟永壽王。ヒソカニ逃亡信乃
ハ赴キ大井持光ト云モノヲ憑テ隠レ居ル。結城氏
朝ガ末子成朝也。常陸へ逃行。憲實ハ又鎌倉ヲ
立退テ。諸國へ行脚。後ニハ長門周防ノ邊ニ徙御
ト。云傳フ。六月義教。赤松蒲祐入道性具。カ所
領備前播磨美作ヲ分テ。其一族赤松伊豆守貞
村ニ授シトス。蒲祐ガ子彦次即教康コレヲ知テ。蒲
祐ニ語ル。蒲祐恨ラ舍ム。今月廿四日。義教蒲祐ガ
宅へ渡御。猿樂ヲ見物。酒宴ヲ設ク。此時蒲祐カ
一族左馬助ト教康ト相謀リ。猿樂酒宴ノ最中ニ
厩ノ馬ヲ放テ。其サワギノキレニ門ヲ閉テ教康
義教驚處ラ。赤松カ家人安積ウレロヨリ御頸ヲ
賜ル。座中大ニ騒動ス。大内介持世垣ヲ逾テ逃
出。蒲祐教康ハ。義教ノ頸ヲ持テ。一族ヲ引ッレ。播

州へ下向ス。義教時ニ歳四十八。太政大臣ヲ贈
ラル。普廣院ト号ス。善山ト称ス。

正長元年ヨリ今年テ。治世十四年。管領細川右
京大夫持之。畠山左衛門。督持國大内。介持世等
以下相談シ。義教ノ子義勝ヲモリタテ主君トス時
ニ僅ニ八歳ナリ。細川讚岐守持常赤松伊豆守貞
村。武田大膳大夫信賢ヲ。大手ノ大將トシ。山名
右衛門督持豊同修理大夫教清同相摸守教之
ヲ。搦手ノ大將トシ。播磨ニ發向シ。蒲祐父子ヲ誅
罰セシム。持常蒲祐ト中ヨカリシユヘ進攻ス。
月。綸旨ヲ播磨ノ寄手ニ賜テ。蒲祐ヲ誅セシム。
同月。義勝從五位下ニ叙ス。九月。山名持豊教

清教之。播州ヲ攻破テ。蒲祐自害ス。年六十一。安
積以下家人多ク死。教康ハ伊勢國司ヲ懲三落ケル。右
國司同心セガルニ。教康自害年十九。左馬助公築紫ヘ
逃レ行。朝鮮一渡ルトナ。蒲祐力首ヲハ。獄門ニカケ。播磨
ヲ山名持豊ニ賜リ。美作ヲ教清ニ賜リ。備前ヲ教之ニ
賜フ。持豊剃髮ニテ宗全ト號ス。太宰少貳嘉頼。蒲祐追
詣ノ催促ニ應セス。大内介持世ニ仰テ攻ニ。嘉頼戰敗
テ對馬ヘ赴ク。大内遂ニ少貳ガ領地ヲ取リ。明徳ノ乱ニ
山名氏清討レ。其後泉塚ノ戰ニ大内。義弘討レヨリ。兩
家少襄レカゴヨリ山名大内又大ナリ。十一月。西園
寺公名内府ヲ辭ス。花山院大納言持忠内府ニ任ス。
二年八月。管領細川右京大夫持之入道。常喜卒年四十三。

畠山左衛門督持國入道德本管領ニ任ス。十月伊勢國司北畠神人ト確執ニヨリテ管領德本ヨリ飯尾貞元布施貞基松田氏秀ヲ遣テ和解セシム。伊勢ノ北畠公元來親房力子頭能力未ナレハ。南朝ノ方ナリシガ此時スニ武家ニ從^スリ。同月多武峯大織冠像破裂ニヨリテ。一条閑白持基ヨリ告文ヲ納ラル。古ヨリ國家變アル時ハ。此廟鳴動^シ遺像破裂スト云傳フ。同月主上御不例諸社へ奉弊。十一月七日源義勝室町館ニテ元服。一条閑白持基ヲ招テ加冠^{セシム}。理髮^ハ三條中將公綱ナリ。月御九人着座雲客數輩勤役。勅使右中辨俊秀來テ冠直衣ヲ賜ル。征夷大將軍ニ任^ス正五位下ニ叙^ス。左中將ヲ兼ラル。翌日百官往テ賀ス。

二年正月義勝從四位下ニ叙ス。五月朝鮮使者來朝入管領畠山德本。彼ハ貢職^ヲ三事寄^テ商買ノタヌニ采ル。尤ベレ。將軍幼稚^{ヨリ}ナレハ。諸國ノ費無益ナリトテ。兵庫ヨリ追返入。普廣院吊禮^ヲ來朝スト申ニヨリテ。京へ入^セス。斯波千代德ヲニシテ。雜用ヲ下行セシム。六月朝鮮人室町殿へ參^ス。義勝ニ謁^ス。七月廿一日征夷大將軍左中將源義勝早世。僅十歳。此人幼少ナドモ馬ニ乘コトヲ好シ^カアヤリテ落馬せラル。上云傳^フ治世三年。慶雲院ト號ス。左大臣從一位ヲ贈ラル。畠山德本等。義勝ノ弟義成ヲ立テ主君トス時二八歳ナリ。九月二十三日ノ夜。凶族内裏ニ乱入。一手ハ清涼殿ニノホリ。一手ハ局町ヨリ攻入テ火ヲ放ツ。長刀ヲ持タル者玉体ヲカサントシケル。目

クレテタヲレケレハ。主上ハ幸ニ、スカレターフテ。近衛殿房
ノ行幸。二種神器ハ凶族盜取レラ。内侍所ヲハ。東門
ノ番佐々木黒田取出レ奉ル。寶劍ハ清水寺ノ邊ニ捨置
レラ。心月坊ト云モノ拾ヒリテ奉ル。神玺ハ奪取レヌ。凶族等
赴ヲ牒送ス。日野一位有光入道同意ニヨリテ其子右大
弁宰相資親ト共ニ害セラ。武士等歟山ニ登リ。衆徒相共
ニ凶族ヲ攻ケレハ。彼官ヲ始皆討レヌ。同比播州ノ浪人等。
赤松三郎ヲ取立テ。謀叛メ誅セラ。レヌ。

文安元年正月義成初テ畠山德本カ亭ヘ渡御。路次諸
大名过岡。二月洛中天豆小豆虚空ヨリ降隋。四月
西京住人ト東京ノ住人ト酒麴賣ノ事ヲ訴論シ。西京

下ケレハ。憤テ北野ノ社ヘ籠ル。徳本時ノ侍所佐々木京
極持清上相議レ兵士ヲ遣シテ捕レ。惡黨等放火。杜頭
并西京悉焼亡。八月南朝ノ殘黨等南帝ノ官ヲ取立て。吉野奥紀伊國ノ邊ニテ蜂起ス。去年九月奪取レ神玺此
所ニアリケルトナシ。

二年十一月一条閑白持基薨。年五十八。後福照院ト号ス。
近衛左府房嗣ト一條前攝政兼良ト執柄ヲ争テ。畠山
徳本ヘ双方ヨリ相議セラ。然モ勅許ニヨリテ。房嗣閑
白トナル。大納言藤原時房内府ニ任ス。細川勝元管領
三往ス。歳十六。此比閑東ノ武士等。京都ヘ訴望シテ。故持
氏カ末子永壽王信濃國ニアリシ。鎌倉ヘ迎テ御所ト称
シ元服シテ成氏ト号ス。上以憲實カ子龍若ヲ管領ト称シ。

元服ニ憲忠上號ニ。山内ニ居レム。扇谷ノ上校持朝カ娘ヲ
憲忠ニ嫁レ。一族家人保護ニ。関東暫無事ナリ。

三年正月ニ一條兼良太政大臣ニ任ニ。關白左大臣房嗣ノ
上三位ス。内大臣時房辞退洞院大納言藤原實濟内府
ニ任ス。兼良時三四十六歳博學廣才ノ譽アリテ。着ス書
多シ。神道歌道佛學ニモ兼通セリ。實熙モ有職ノ聞ヘアリ。

四月。關白房嗣左府ヲ辞入鷹司右府房平左二轉ニ。
一條大納言持通右府ニ任ス。同月。義成讀書始乘馬始
等アリ。十二月。義成名字定宸筆ヲ深ラル。二條右府
持通傳進セラル。同月。義成從五位下ニ叙セラル。今年
相國寺長老周鳳瑞溪。碑苑院ニ住持。僧錄司十十八。義
滿義持代ヨリ碑苑院ニ住持スル者ヲ。僧錄ニ任セラル。薩

寂軒ヲ其副トレテ。五山十刹出世ノ事ヲ取次レメ。武家
ヨリ公帖ヲ賜ル。

四年一月。義成從五位上ニ叙ニ侍従ニ任フ。四月。義
成犬追物興行。五月。富樫次郎。其叔父安高上加賀國
守護職ヲ論ス。管領細川勝元。公安高ヲ扶ク。畠山德本
次郎ヲ扶ク。故ニ半國ツ、分テ領セム。六月。一條兼
良執柄ヲ望テ。義成ノ母大方殿ニ就テ訴ラ。武家執奏
故ニ近衛房嗣當職停ラヒ。兼良關白上。十一月。義
成ヲ始アリ。同月。畠山カ家人紀伊國南方ノ敵ヲ破テ。
彼大將圓滿院還俗ノ官ヲ討取テ。其頸ヲ京へ献ス。同
月。伏見殿入道親主道欽。太上天皇ノ尊号ヲ奉ラル。主
上ノ實父ナルニ。年來尊号ヲ。望申サル主上ノ同母弟

貞常親王伏見殿ノ相續之文ニテ。代々親王宣下
セラル

五年一月太上天皇へ行幸。細川勝元が家人辻固。八
月赤松左馬助朝鮮ヨリ歸。其家ヲ再興セントス事ア
ラハレニテ誅セラル。其首京へ到來。十二月。義成。左馬頭
ニ任ス

寶徳元年四月十六日。義成元服。十五歳加冠ハ管領細川
武藏守勝元勤^{エフ}之理。髮ハ細川民部少輔教春役^{サマツク}之。其餘
役者皆細川一族ナリ。勅使傳奏中山宰相親通御太
刀ヲ賜。武家ヨリ砂金御劍御馬ヲ献セラバ。親通ニモ
御劍御馬ヲ賜ル。其日。椀飯ハ勝元沙汰^{ヨリ}翌日ノ椀飯ハ
畠山義就沙汰^{本カ子}ス。十九日。公家諸大名等来賀ス。

閑白兼良ハカリ當職ナルニヘ往ス。二十九日。義成征夷
大將軍ニ任ス。外記官務宣旨ヲ持參。伊勢守貞親奉元
祿物ヲ授ク。今日吉書判始マリ。勝元行之。八月。義
成參議ニ任ス。左中將ヲ兼ナ。從四位下ニ叙ス。衣冠車ニ
乘テ參内。勝元供奉。十一月。畠山德本管領ニ再任
二年正月。義成從三位ニ叙ス。三月。權大納言ニ任ス
四月。閑白兼良相國ヲ辭ス。五月。洞院實^{ホシ}内府ヲ辞
ス。西二條前大納言公保内府ニ任ス。同月。義成從二位ニ叙ス
三条大納言實量内府ニ任ス。同月。義成從二位ニ叙ス
七月。義成參内公卿扈^ト從雲客勤役。八月。殺奠直^{タチ}
講中原師益^モ。義成ヨリ御教書ヲ賜テ初獻ヲ役ス。此
比ニテモ春秋二仲。恒式急^{ヨリ}ラス

三至七月琉球人來。八月義成書簡ヲ大明へ遣ス
九月管領畠山德本カ家人侍所京極持清カ從者ヲ
殺ス。持清怒テ畠山上鬪ニトス。細川右馬頭成賢コレヲ制
止シテ畠山ガ下手人ヲ出。持清ヲシテ斬シム。

亨德元年十月久我前内府源清通太政大臣三任ス。三
條實量内府ヲ辟ス。一條大納言教房内府三任ス。細川
右京大夫勝元管領三再任ス。

二年三月義成從一位ニ叙ス。四月一條兼良閑白ヲ
辭ス。一條右府持通閑白トナリ。六月義成名ヲ義政ト
改ハ。同月兼良准三宮食邑隨身兵仗等忠仁公ノ例
ノコトニ。九月久我相國源清通薨ス。年六十一。十二
月將軍義政源氏長者トナリ。葬學淳和兩院ノ別當ト

十九

三年四月畠山伊豫守義就上畠山尾張守政長上家督
ヲ爭フ。初德本子ナキニヨリテ。其弟持富ガ子政長ヲ養
テ家督トス。其後實子義就生ケレハ。政長ヲニリゾケ。義
就ヲ家督トニ政長ヲ追出。誅罰ノ御教書ヲ申譴然トモ
細川勝元山名宗全等政長ヲ願負ス。故ニ政長ヒソカニ
勝元ガ家ニカクレバ。其從者全宗全カ所ニカクシラク。七
月一条持通閑白并右府ヲ辟ス。舊司左府房平閑白
三任。洞院前内府實熙右府三任ス。八月山名宗全等
畠山ガ家人并浪人等ヲ召ツムルニヨリテ。洛中物念
故ニ山名相模守教之細川兵部少輔勝久武田某等
室町殿ヲ警固ス。廿一日ノ夜宗全ガハカラヒニテ。浪人

等ヲニテ。俄ニ徳本宅ヲ攻テ火ヲ放ッ。徳本、義就逃出。義就ハ河内へ赴き、徳本ハ建仁寺、西来院へ蟄居。心ナラズ政長ヲ家督トス。勝元コレヲ取立て。義政ニ謁セシムスナハキ誅罰ノ御教書召カサル。政長ヲニテ。徳本カ家ヲ續シム。然トモ義政此騷動宗全ガ爲ナレコトヲ怒テ。軍勢ヲ召アツメ。宗全ヲ誅せントス。勝元サヘぐ申シ宥メテ。宗全ヲ但馬國へ蟄居セシメ。其子教豊。在京奉公せシム。勝元モ其家人儀谷某。今度ノ張本ナリ。ト誅戮。義政ニ謝。世上無爲ナリ。十二月。関東ニテ。足利成氏。蜜ニ結城氏。朝ガ子成朝。ト相謀。テ。上枚右京亮憲忠ヲ殺メ。持氏氏朝ガ仇ヲ報ユト称ス。上枚ガ家臣長尾等。越後ノ上枚房頭ヲ取立テ。上野ニ住ミ。鑠倉ヲ攻テ成氏ト相戦。成氏遂ニ敗。北シテ下野ノ古河ニ移住。是ヲ古河ノ御所ト云。房頭鑠倉三入テ。関東ヲ管領ス。ヨリ古河方相分テ。東國大乱。康正元年五月。細川讚岐守成之。赤松ガ家ノ絶タルヲアハレ。三元山名宗全力蟄居。ヨキ折節ト思テ。赤松浦祐ガ姪彦五郎則尚赦免ノ事ヲ。義政ニ申請テ。則尚ヲ播磨ノ本領へ赴。播磨八宗全が賜ル國ナルニ。大ニ怒テ。兵ヲ率テ赤松ヲ擊破ル。則尚討レス。宗全スナ半入洛ス。其威肩ヲナラブル者ナレ。六月。鷹司房牛闘白并充府ヲ辭ス。一條持通。闘白三再任ス。西園寺前内府公名太政大臣三任ス。七月。畠山義就河内ヨリ出テ。大和片岡ノ邊ヲ掠。義政公ヲ呼返シテ。政長ト和睦セシム。

八月洞院右府實熙左府ニ任ス。一條内府教房右府ニ任ス。近衛大納言教基内府ニ任ス。義政右大將ヲ兼ス。二年正月義政馬寮御監トナル。三月義政石清水參詣。公卿殿上人勤役。八月太上天皇道欽崩ス。年八十。五後崇光院上號ス。今年義政晝簡ヲ朝鮮國王三贈。長祿元年一月長得院義豐ニ左大臣從一位ヲ贈ラル。四月洞院實熙左府ヲ辭ニテ剃髮ス。東山ノ左府ト號ス。六月一條右府教房左府ニ轉ス。一條前内府實量右府ニ任ス。八月西園寺公名相國ヲ辭ス。九月實量右府ヲ辭ス。近衛内府教基右府ニ任ス。正親町三條實雅内府ニ任ス。

二年七月二條閑白持通太政大臣ニ任ス。實雅内府ヲ辭ス。將軍源義政内大臣ニ任ス。歲二十四。八月神堡南方ヨリ内裏ヘ返納。是ハ赤松ガ即從石見太郎左衛門ト云モノ。浪人トナリテ。二條右府實量三仕テ。赤松ガ家ノ絶タルヲ歎ク。實量何トゾ。嘉吉ノ大逆ヲ贖ボトノ奉公アル。キヤト云石見若南方へ赴テ。其王ヲ藏テ。神堡ヲ取テ返納ハ如何アル。ベキトニ至。實量奏聞。武家ヘ申ケレハ。許容止ラル。右見喜テ。赤松ガ一族間島ト。其即從中村ト。南方へ奉公せしメ。近クナレテ。隙ヲ伺テ。南帝ヲ弑シ。神堡ヲ奪取テ。坂ル吉野ノ鄉民追懸ケレハ。中村ハ討死ス。間嶋神堡ヲ擄テ歸京。内裏ヘ進セラル。南朝ハ此時悉亡ケリ。此ニヨリテ。赤松蒲祐カ弟。義雅ガ孫。次郎政則トテ。五歳ナル召テ。加賀半國ヲ賜テ。赤松氏

ヲ興スコレモ細川家ハ取成ナルニ。山名宗全ハ喜スニソニ
石見ヲ辻切ニス。十二月一條持通關白ヲ辭ス。一條教
房關白三任ス。教房ハ兼良ノ子ナリ。

三年一月義政新館ヲ營ス。花亭ト號ス。十二月關
白教房左府ヲ辭ス。二條前右府實量左府ニ任ス。
寛正元年六月前關白持通相國ヲ辭ス。七月實量左
府ヲ辭ス。八月義政内府ヨリ左大臣ニ任ス。右大將
元ノ如レ。德大寺大納言公有内府ニ任ス。九月畠山
右衛門佐義就又義政ノ命ニ違テ河内へ赴ク。若江城ヲ
ニコモル。畠山尾張守政長ニ仰テ。義就ヲ攻テ。若江城ヲ
破ル。義就嶽山金胎寺ニ城ヲ構テ。政長ト合戦ヤース

同年朝鮮人來朝

二年七月徳大寺公有内府ヲ辭ス。久我大納言源通
尚内府ニ任ス。八月義政大將ヲ辭ス。十月義政ノ
弟左兵衛督政知^七。關東下向。是ハ上校房顯ト古河成
氏ト連年合戦。東國ニレツラサルユヘ。關東ヨリ政知ヲ
請侍シ。主君トセント。望ニヨリテナリ。然上モ政知鑑倉ハ
入ス。爭豆ノ北條ニ住セラル。山内扇谷^{カヤ}。兩上校皆政知ヲ
ウヤマフテ。堀越ノ御所ト號ス。然トモ東國ハ皆上校ガ
下知ニ属テ。政知サヘテノ威モナカリケリ。十二月近
衛前關白房嗣太政大臣ニ任ス。年五十九。

三年四月畠山義就善^昌戰テ。政長利ヲ失ニミリテ。細川
讚岐守成之。山名彈^冬。正是豐井武田。佐々木伊勢國
司北畠教良等。政長カ加勢トレテ。遣サル。義就戰敗^テ。

金胎寺城没落 八月近衛右府教基薨ス。年四十七
徳大寺前内府公有右府ニ任ス

四年四月、一条教房閔白ヲ辭ス。一条持通又閔白ニ
任ス。教房當職ノ時、一座ノ宣旨ヲ蒙ス。故ニ上表ノ後
三條前左府實量カ下ニアルベシト勅詔アリト云トモ。教
房カ父妻良執奏レテ教房ヲ實量カ上ニ三座セレム。兼
良時年六十二。教房スニ二閔白タル故ニ兼良ラ一条ノ
大閔十號スル其身閔白ヲ歴テ。其子モ又閔白トナル。テ
存生セル人ラハ大閔ト云。同月、畠山義就穀山ノ城
ヲ落テ。高野山ヘ入。政長ツ。イテ攻。義就吉野山ヘ逃。カ
ク。十一月、政長帰洛。初山名宗全ハ細川勝元ト共
ニ政長ヲ取立テ。義就ヲレリソクト云トモ。細川ガ赤松
ガ家ヲ立ルコトヲ憚リ。今度數年ノ戰ニ。義就ガ武勇
十九ノ宗全聞テ。已カ助^參トせントラモニ。密ニ交々通^シリ。勝
元ハ宗全カ婚ニテ。レタシキウヘ。勝元子ナキユヘ。宗全カ
子ラ養ケル。ガ勝元實子出來シケレハ。其養子ヲ僧トス。
コレヨリ細川山名中丁レク。權ヲ爭フキサレアリ。

五年正月源通尚内府ヲ辞ス。四月觀世音阿弥菴子
息又三郎糺河原ニテ。勸進猿樂アリ。義政棧敷ヲ構テ
云々。日見物細川勝元。畠山政長。斯波義廉カハルく。經
營ス。席路ニハ二管領ノ家ヘ渡御アリテ。猿樂ヲ召テ纏
頭セシム。七月九條大納言政忠内府ニ任ス。同月主
上脱屣シテ。位ヲ東宮成仁ニ譲ル。

年號 永享十二年。嘉吉三年。文安五年。

寶德三年

年 享徳三年 康正二年 長禄三年 寛正五年
合三十六年

百四代

後土御門院 謂ハ成仁後花園院ノ子也母ハ嘉樂門院
大炊御門内大臣藤原信宗娘ナリ。寛正五年七月受
禪時三十三歳閑白ハ二条太政大臣持通ナリ。後花
園院ノ御所ノ称ス。將軍源義政院ノ執事トナル。八
月畠山政長管領ニ任ス。九月徳大寺公有右府ヲ辞
ス。十一月前内府源通尚右府ニ任ス。同月義政准
三宮 義政既ニ治世久。今年三十。イヽタ男子アズ。
故ニ其弟淨土寺門跡義尋ヲ還俗セシメ名ヲ義視ト
改テ從五位下左馬頭ニ任ス。今出川殿ト号シ天下ヲ譲テ
シト約シ。細川勝元ヲ義視ノ執事トス。

六年正月義視從四位下ニ叙ス。二月判始弓馬始アリ。三月義
政東山花見細川勝元經營。八月義政細川勝元ガ接
敷ニテ犬追物ヲ見ル。九月九条殿政忠内府ヲ辞ス。今
出川大納言藤原教季内府ニ任ス。十一月。義視元服
參議ニ任。左中將ヲ兼。同月義政御臺坂藤原富子
男子ヲ生リ。密ニ山名宗全ヲ頼ニ。義視家督タラハ此子
ハ僧トナルヘキヤ。願ハモリタテフレヨトアリケレハ宗全元
ヨリ勝元ト不和ナル故義視代ニナラハ。勝元イヨク強カル
ヘシト思ヒテ若君ヲモリタテ申サント約ス。十二月。義視
大納言ニ任シ。從三位ニ叙ス。同月。御即位ノ儀行ハル
文正元年正月義視從一位ニ叙ス。同月。源通尚右府ヲ

辭ス。一條大納言政嗣右府ニ住ス。二月、藤原毅季内府
ヲ辞ス。西園寺大納言實遠内府ニ住ス。四月、斯波
義廉トナガ、斯波義敏ト家督ヲ爭。此ヨリ前、斯波ノ宗領
千代德早世トナガ、子ナミ義敏ラ家督トせント。家人甲
斐朝倉織田同心せス。故ニ伊勢守貞親カトリツキニテ。
並川義廉ヲ。斯波ノ家督トス。義敏浪人トナリ。周防國
ニアリ。然ルニ義敏ガ妹貞親カ妾アガマトナリ。義敏カ子薦涼
軒葉西堂ガ弟子タリ。故ニ貞親葉西堂相談ニテ。義政
(申)義敏ヲ召帰。斯波ノ家ラツカシム。義廉從ハス。義廉
山名宗全ガ婚ナリ。故ニ宗全大ニ怒テ兵ヲ聚ム。義廉
ヲ頭肩スト風聞シケレバ。義政怒テ。義視ト不和。義視
恐テ細川勝元ガ宅ヘモムク。貞親葉西堂并ニ義敏京
ト相睦レ。

△出テ逃走。日野大納言勝光ト一色範直トハカラヒテ。
義政義視和睦宗全御臺所ヲ頼ミ。義政(申)島山義
就ヲ上洛セシメ已ガ助トス。島山政長忠テ。亦細川勝元
ト相睦レ。

應仁元年正月。山名宗全畠山義就幕府ノ四門ヲ警
固。義視ヲモ室町殿へ招寄。主上上皇ヲモ室町殿へ行
幸。御幸ナシ奉リ。細川勝元畠山政長ヲ殺ト申ス許容
ナシ。義視使ヲ遣シ。勝元ラスメテ政長ト交ヲ絶シ。勝
元從フ。是ニヨリテ。政長ト合戦。政長逃亡ス。宗全義就威
ヲ洛中ニ振ス。同月。西園寺ノ實遠内府ヲ辞ス。日野
勝光内府ニ住ス。二月。斯波義廉管領ニ住ス。勝元ハ威

表于籠居ケル。ガ政長ヲ救サルコトヲ無念ニ思。宗全義就が威ヲ振テ惡テ。遂ニ合戦ノ用意ヲナス。細川一族。淡路。讃岐。阿波。土佐。和泉。攝津。舟波。二河備中ノ勢。畠山政長。紀伊河内。越中ノ勢。斯波。義敏。兵六五百人。京極持清。近江。飛彈。出雲。隱岐ノ勢。赤松政則。兵五百人。武田國信。安藝若狭ノ勢。富樫。今兵五百人。其外吉良。義真。仁木成長等。大小名。勝元ニ從者十六万人。ト云リ。山名ノ丁族。但馬。播磨備後。因幡伯耆。美作。石見ノ勢。斯波。義廉。遠江。尾張。越前ノ勢。畠山。義就。大和。河内。熊野。堺同義。統能登ノ勢。一色。義直。丹波。伊勢等ノ勢。土岐。成頼。美濃。堺。六角。高頼。近江ノ内ノ勢。大内政弘。周防。長門。豊前。筑前。并。安藝。石見。内ノ勢。河野一族。伊豫ノ勢。其外吉良。義藤。仁木。教將等以下。宗全ニ從者十一万人。ト号ス。勝元。ガ陣ハ東ニアリ。宗全。ガ陣ハ西ニアリ。洛中相分テ相撲。義視直。三勝元。宗全。ガ許ヘ到。テアツカフトイヘドモ同心セズ。五月。一條持通。閑白ヲ辞。否一條。大閻兼良。又閑白ニ任ス。同月。勝元。赤松政則ヲレテ。播磨備前ヘ赴ケ。本國ナル故。程ナク打平テ。兩國ノ兵ヲ催シテ。歸洛ス。宗全。ガ方ヨリ。一色。義直ヲレテ。義政。館ヲ守レム。勝元。大軍ヲ帥テ。義直ヲ伐敗リ。則幕府ヲ警固シ。義政ノ旌ヲ給テ。宗全ヲ討。六月ヨリ合戦始テ。毎日止テ。ナレ。洛中。洛外ノ在家寺社多焼亡。八月。大内。介政弘。大勢ヲ帥テ上洛ス。宗全。ガ方ヘ加ハ。赤松攝州ニ拒テ。合戦。赤松敗軍。同月。勝元主

上皇ノ室町ノ花御所へ行幸御幸ナラシム。此ハ義政
義視宗全ガ方ヘナリタマフナラハ。勝元ハ。主上上皇ヲ
已カ方ニ置キ。ヒラセテ。戦ニトノタクミナリ。九月。義視
密ニ京ヲ出テ。伊勢國へ赴キ。國司北畠中納言源教
具ガ館ニアリ。同月。義政左大臣ヲ辞ス。

二年正月。一条政嗣左府ニ任ス。九条大納言政基右府
ニ任ス。正月ヨリ三月ニ至テ。勝元宗全洛中合戦。其
徒黨ノ者。并國々ニテモ相戦。四月。勝元使ヲ遣シテ
義視ヲ迎テ。十月。義視京着。此時。勝元義視ヲ將軍
トセントハカルヨシ風聞シテ。義政疑アルヨシ。勝元聞テ。其
疑ヲ散セシタメ。義視ヲレテ。戻山ヘ上レム。宗全人ヲレ
テ。義視ヲ已カ陣ヘ迎テ。主君トス。此ヨリ義政ハ。勝元

ガ方ナリ。義視宗全ガ方ニ兄弟國ヲ争ニ似タリ。
十一月。日野勝光内府ヲ辞ス。鷹司大納言政平内府ニ
任ス。

文明元年正月。義政ノ子義尚。五歳ニテ。勝元以下諸大
名ノ礼ヲ受ラ。伊勢守貞宗コレヲ扶持ス。宗全方ノ大
名等ハ。義視三謁ス。五月。多賀豊後守高忠。近江ヨリ勢ヲ
催シ。上洛。勝元ニクハル所ニ。又近江ニテ。八角龜毒起ト
聞テ。高忠。坂陣ス。高忠ハ。京極ガ族ナリ。京都ノ所司代
ナリテ。名アル者ナリ。又筑紫ニテ。大内ガ留守ニ尾加
賀守ト云者。謀叛シテ。勝元ニ應ズ。其隙ヲマラヒ。少貳嘉
頼。ガ子教頼。對馬ヨリ打出テ。筑前ノ本領ヲ取返ス。
九州モ大ニ孔ル。

二年七月。一條閑白兼良辞退ス。八月。一條左府政嗣閑白トナリ。兼良時三六十九歳代々相傳ノ書籍皆洛中ノ兵乱ニ或ハ燒失シ或ハ濫妨セラニ。兼良ハ奈良ヘ蟄居ス。其子前閑白教房ハ兵庫ヘ下リ。其孫房家八土佐ヘ下ル。土佐一条トハ此未^全ナリ。其外ノ百官モ皆散^カ、三落行ケリ。十二月後花園上皇至町殿ニテ崩ス。歲五十一。

三年正月。上皇ヲ悲田寺ニ葬^{カス}。義政歩行ニテ從^カ兵乱中ナルニヨリテ。管領勝元侍東赤松政則并取司代浦上則宗警固嚴重^{ガバ}ナリ。五月。義政越前國ヲ朝倉孝景ニ給ル。越前ハ斯波ノ武衛代^カノ領國ナリ。然ル^カ其家老甲斐某兵乱ノキレニ。武衛ヲ殺^シテ國ヲ天下盡^カ戰國十九。

奪フ。朝倉又甲斐ヲ殺^シテ。遂ニ越前ノ主トナハ。其後武衛ノ子孫浪人^{シテ}關東へ赴^カ。尾張モ武衛ノ國ナリシヲ。其家老織田奪取^シ。同年關東ニテ上校顯定古河成氏ト合戰^シ。古河ノ城落^テ。成氏千葉へ逃走ル。天下盡^カ戰國十九。

四年。勝元宗全^カ洛中ノ合戰猶イキメ止^カ。能登富山義統^カ宗全^カ方ナリ^シ。義政ノ旨ニ從^カ。勝元へ降参ス。是ニヨリテ北國路開^カ。勝元が陣へ兵糧多聚^ル。故ニ宗全方ノ者多降参ス。

五年三月十九日。山名右衛門督持豊入道宗全卒^ス。歲七十。五月十一日。細川右京大夫勝元卒^ス。歲四十。四龍安寺ト号ス。應仁元年ヨリ。此ニテ七年合戰勝

負決せス。兩方ノ大將病死ス。其徒黨猶洛中ニ對陣ス。
朝廷モコレヨリ弥襄ミツコウテ年中ノ行事モ皆スタレヌ。武將ノ
威モカロクナリテ。其下知ラキカズ。六月。一条大閣兼
良落飾ラブダク歲七十二。後成恩寺ト号シ。法名ラ覺惠カクエト云
理髮タリ。正五位下ニ叙シ。左中將ニ任シ。同日。義政ノ
讓ラ受テ。征夷大將軍ニ任シ。參内時。九歲。畠山政長
管領ニ任ス。七ヶ日ニシテ止ラレテ。畠山義統管領ニ
任ス。

六年。義尚從四位下ニ任ス。九月。義政書簡ヲ朝鮮
ヘ遣シ。大明ノ勘合ノ印判ラ求ム。

七年正月。義尚美作守兼一二月。一条白政
嗣左府ヲ辞ス。三月。九條政基左府ニ轉シ。鷹司。政平
右府ニ任ス。近衛。大納言。政家内府ニ任。四月。義尚正
四位下ニ叙ス。八月。義政遣唐船ラ大明ニ遣ス。此比大
明へノ使者ハ皆禪僧ナリ。九月。義尚參議ニ任ス。中將
元ノ如シ。十月。義尚讀書始。此人ハ學問ヲ好ミ。和歌
弓馬ニモ心ガケラ。

八年正月。義尚從三位ニ叙ス。五月。一条政嗣閑白ヲ
辞ス。九條政基閑白ニ任シテ。左府ヲ辭ス。日野。前内
府勝光左府ニ任ス。勝光ハ義尚ノ母富子ノ兄ナリ。故
ニ清花十ラズシテ昇進セリ。六月。勝光左府ヲ辭ス
八月。鷹司。政平。左府ニ任シ。近衛政家右府ニ轉シ。三
条大納言。藤原公敦内府ニ任ス。

九年正月義尚正三位ニ叙ス　十一月山名宗全ガ徒
黨大名等皆京ヲ去テ國々へ下向ス。義視ハ美濃ヘ
赴^{アモリ}久洛中ハ靜謐^{セイキョウ}ス。畠山政長管領トナル。應仁ヨリ是
ニテ十一年ニ及ヘリ。此ヨリ諸大名皆其分國ヲ押領
シテ武將ノ威襄^{アサシ}ヌ。

十年閏東ニテ足利成氏十上枚顯定ト和睦^{ハグメイ}ス。成氏
古河ヘ歸^{カム}。顯定ハ山内ノ家ヲ續^{ハス}テ。上野平井城ヲ構
テ。八箇國ヲ下知ス。此時扇谷ノ上枚ヲハ修理^{カタチ}大夫
定正ト云。其家老ヲ太田道真ト云。其子ヲ道灌ト云。
武州ニ住セリ。太田父子、カ謀^{カミツ}ニテ閏東ノ武士。山内ヲ
背^{ハサウ}テ扇谷ニ從^{ハシ}者多ニ。此ヨリ兩上枚不和ニテ合戦
ニ及ヘリ。

十一年正月義尚從二位ニ叙ス。二月九条政基閑白
ヲ辞ス。近衛右府政家閑白トナリ。三月鷹司政平左府
ヲ辞ス。政家左府トナリ。三條内府公敦右府トナリ。大炊
御門大納言信量内大臣トナリ。十一月義尚十五歳
判始評定始。此ヨリ義政二代テ。政務ヲ沙汰^{サタフ}ス。義政ハ
東山ノ東求堂^{カマクラ}ニ閑居^{ハシメル}。古器古畫ヲ弄^{ハシマフ}。茶器ヲ聚^{ハシマフ}テ
ヨリテ。一条大閣兼良樵^{カタシマ}談治要ヲ撰^{ハシマフ}ス。

十二年三月三條公敦右府ヲ辭ス。今出川前内府教
季右府ニ任ス。義尚大納言ニ任ス。七月義尚ノ死望^{カタマリ}
ヨリテ。一条大閣兼良樵^{カタシマ}談治要ヲ撰^{ハシマフ}ス。

十三年正月今出川教季右府ヲ辭ス。西園寺實遠

右府一任ス 四月ニ一条大閣兼良薨ス 年八十其耆
ス書世ニ傳ルモノアリ。今ニ至ニテ其博識ヲ称ス 五
月大炊御門信量内大臣ヲ辞ス 六月徳大寺大納
言實淳内府ニ任フ 七月久我前右府源通博本名通尚
太政大臣ニ任ス 十二月教季左府ニ任ス
十四年十月久我相國通博薨ス 嵯五十七 十二月
教季左府ヲ辞ス

十五年正月西園寺實遠左府ニ任ス 大炊御門信
量右府ニ任ス 同月義尚館ニ詩歌ノ會アリ 一二
月近衛政家閑白ヲ辞ス。鷹司政平閑白トナル 大三
月義尚從一位ニ叙ス

十六年十一月義尚源氏長者遍學淳和兩院別當
トナル

十七年三月鷹司閑白政平太政大臣ニ任ス 德大寺
實淳内府ヲ辭ス。中院大納言源通季内府ニ任ス 三
日ヲヘテ辭退花山院大納言政長内府ニ任ス 四月
政平相國ヲ辭ス 六月義政落飾喜山ト号ム。法名道
楨又道慶ト改ム 八月義尚右大將ヲ兼任ス 今年
古河成氏和睦ヲ請。義政義尚許容ス

十八年正月義尚馬寮御監トナル 七月細川右京大
夫政元管領ニ任ス 是ハ勝元ガ子ナリ 同月義尚大
將拜賀參内其儀式先例ヲ考テ 嚴重ナリ。東山殿
義政棧敷ヲ構テ見物 十二月花山院政長内府ヲ辭
ス。一条大納言冬良内府ニ任ス。冬良ハ兼良ノ二男也。

今年閏東ニテ。山内上枚顕定ガハカリヨドニテ。扇谷上枚定正其家老太田道菴ヲ殺ス。此ヨリ扇谷裏ニ顕定威ヲ閑東ニ振ヘリ。

長享元年二月。鷹司政平閑白ト辞ス。九条前内府政忠閑白ト丸。八月大炊御門右府信量薨ス。歳四十六。西園寺實遠左府ヲ辞ス。徳大寺前内府實淳左府ニ任。花山院前内府政長右府ニ任ス。九月佐々木六角高頼上洛セス。義尚自軍勢ヲ帥テ。近江へ發向ス。十月高頼逃テ。甲賀山ニ入。義尚鈎里ニ在陣ス。車中ニテモ孝經左傳等ノ講談ヲ聞。今年伊勢新九郎長氏京ヨリ駿河へ下向。今川カ許ニ住ス。長氏或氏茂トモ云トナシ。

二年八月。一条内府冬良閑白ト丸。九月。九条前閑白政忠薨ス。歳五十。同月。近衛前閑白政家太政大臣任ス。同月。義尚内大臣ニ任ス。義尚ヲ改テ。義熙ト号ス。延徳元年。二月二十六日。征夷大將軍從一位内大臣源義熙。小鈎里ノ陣中ニ薨ス。歳二十五。常徳院ト号ス。太政大臣ヲ贈ラル。文明五年ヨリ今年ニテ。在職十七年。父義政甚歎テ。其上繼嗣ナキコト愁テ。義視ト和睦ス。四月。義視羨濃ヨリ上洛。落飾。義視カ子義村ヲ。義政養テ。子トス。此ヨリ前。義村已。從五位下左馬頭タリ。七月。今出川大納言藤原公典内府ニ任ス。義政薨ス。歳五十六。太政大臣ヲ贈ラル。慈照院ト号ス。嘉義政薨ス。

吉三年ヨリ今年六月。治世四十九年。三月花山院政長右府ヲ辞ス。近衛大納言尚通右大臣三任ス。四月近衛政家太政大臣ヲ辞ス。七月義村從四位下ニ叙。宰相中將三任ニ。征夷大將軍ニ補ス。歳二十五年正月七日入道。大納言源義親薨ス。歳五十二。大智院ト号ス。太政大臣從一位ヲ贈ラル。三月公興内府ヲ辭ス。一条大納言尚基内大臣三任ス。四月慈照院ノ舍弟從三位左兵衛督源政知伊豆國ニテ卒ス。歳五十七。勝幢院ト号ス。政知ガ子義通ハ伯父慈照院養子ノ契約アリト云リ。

明應元年八月義村軍ヲ帥テ江州六角高頼ヲ攻テ。三井寺三陣ス。高頼甲賀山ニ隠ル。義村旣京

二年正月關白冬良太政大臣三任ス。三月義村河内へ發向レ。畠山義豊ヲ討ツ。畠山政長相從。義豊ハ義就か子ナリ。三月冬良關白ヲ辭ス。近衛右府尚通關白タリ。四月義村正覺寺ニ陣ス。義豐止覺寺ヲ攻ム。細川政元、義豊ニ頼ム。加勢ニテ正覺寺ヲ攻破ル。畠山政長討死ス。其子尚順紀州ニ走ル。義村ヲハ政元捕テ。其家人物部紀伊守ガ來ニ押籠テ。政元ガ計ニ。伊豆國ヨリ。義通ヲ迎テ上洛セレメ。主君トス。義通從五位下ニ叙ス。同月徳大寺實淳左府ヲ辞ス。花山院前右府政長左府ニ任ス。六月義村密ニ逃出テ。越中國ヘ赴キ。其ヨリ又立坂周防國ヘ赴キ。大内介義興ヲ頼テ。年月ヲ送ヒリ。

三年十一月義通正五位下二叙ス。左馬頭ニ任シ名ヲ義
高ト改ム。十二月義高征夷大將軍ニ任ス。歳十六
同月伊勢新九郎駿河今川ガ兵ヲ借テ。伊豆ヨリ相模
ヘ越テ。小田原ノ城ヲ取テ住居ス。新九郎剃髪シ自ラ北
條早雲ト号ス。此ヨリ其威漸盛ナリ。其子ヲ氏綱ト云
父子共ニ武勇アリテ。遂ニ上校ト合戦ニ關東ヲ争フ
五年二月赤松政則從三位ニ叙シ。四月二十五日卒ス
年四十一。南帝ヲ弑シ神玺ヲ取シ功ニ五品ニ叙フト
十一月花山院政長左府ヲ辞ス。十二月近衛
閑白尚通左府ニ轉レ。今出川前内府公興右府ニ任ス。
六年四月尚通左府ヲ辞ス。公興左府ニ任ス。五月
二条内府尚基内府ニ任ス。六月尚通閑白ヲ辞ス。尚
基閑白ニ任ス。久我大納言源豊通内大臣ニ任ス。七月
一条冬良太政大臣ヲ辞ス。九月古河源成氏卒ス。年六
十四。乾亨院ト号ス。其子ヲ政氏ト云。關東ノ武士コレヲ
御取ト称スレバ。名ハカリニテ威望ナレ。十月一条閑白
尚基薨ス。年九七。一條冬良閑白ニ再任ス
七年六月諸國大地震。此比多武峯大織冠像破裂ス
トナシ
八年五月久我内府源豊通右府ニ任ス。八月九条大
納言尚経内府ニ任ス。今年將軍源義尚使ヲ朝鮮ヘ遣
テ。一切板ヲ求。朝鮮ヨリ經ヲ措テ贈テ板ヲハ渡サス
九年三月久我豊通右府ヲ辞ス。九月廿八日主上崩ス。
年五十九。此比朝廷襄微シテ。御葬ノ料十キニヨリテ。四

ナリ。内裏ノ黒戸ニ置奉テ。十一月泉涌寺ニテ
葬禮アリ。

年號践祚ノ年父寛正六年ヲ用。其次 文正一年
應仁二年 文明十八年 長亨二年 延徳三年 明
應九年 合テ在位三十六年

百五代

後柏原院 譚八勝仁後土御門院ノ太子ナリ母ハ准后
源朝子權大納言長賢ガ娘ナリ。文明十二年親王宣
下アリテ。將軍源義政ノ館ニテ元服。御年十七。義政加
冠タリ。明應九年践祚。歲二十七閑白ハ。一條前相國
冬良ナリ。將軍ハ源義高管領ハ。細川右京大夫政元
ナリ。

文龜元年二月九條内府尚經右府ニ任ス。西園寺大
納言公藤内府ニ任ス。六月一條冬良閑白ヲ辞ス。九
條尚經閑白タリ。今寧前將軍義村官職ヲ停ラル。義
村周防ノ大内介ガ訴マリテ。名ヲ義尹ト改ム。西國ノ
武士ヲカタラフ。從フモ多シ。幾内近邊ハ。細川政元
打レタカヘテ。暫靜ナリ。

二年七月將軍源義高從四位下ニ叙ス。參議一年ス。左
中將ヲ兼テ參内 同月。義高名義澄ト改ム。

三年正月義澄從三位ニ叙ス。夏大旱。

永正元年饑饉 同年十月閑東ノ山内上松顯定ト扇
谷上松朝良ト。武州河越ニテ合戰。

二年二月今出川公興左府ヲ辭ス。六月近衛前閑白

太政大臣政家薨ス。年六十二 同年。山内扇谷、兩上
枚和陸ス。此時北条早雲并其子氏綱、小田原城ヨリ
武州出張シ。兵威関東振フユ。兩上枚相共ニ北條
ヲ拒テ合戦。

三年二月九條閑白尚經左府ニ轉ス。西園寺公藤右
府ニ任ス。西三条大納言兼侍從實隆内府ニ任ス。實
隆倭漢ノ才アリテ。殊ニ詠歌ニ達セリ。三条ノ庶流ナリト
云ドモ。才能ヲ以テ家ヲ興セリ。四月實隆内府ヲ辞ス。
鷹司大納言兼輔内府ニ任ス。九月春日山木七千
餘本枯。

四年三月義澄春日參籠七箇日。神樂ノリ。同月

西園寺公藤右府ヲ辭ス。四月鷹司兼輔右府ニ任

三條大納言實香内府ニ任ス。是三条ノ嫡流ナリ。轉
法輪ト号ス。六月細川右京大夫政元が家人香西又
六逆心ヲ企テ。政元ガ小臣戸倉某ニ賂ヲアタヘテ。今月
二十三日ノ夜政元愛宕精進ノ夕、湯殿へ入ケル。戸倉
従入テ。密ニ政元ヲ害ス。近習波々伯部モ未死。初尊氏時
戸倉一力サレテ逃去ス。波々伯部モ未死。初尊氏時
ヨリ細川四國ヲ領。賴之以來。嫡流八管領タルニヨリテ
在京ス。上屋形ト号ス。賴之ガ弟誼春。満之等ハ在國
ル。阿波讚岐ノ内ニアリ。コレヲ下屋形ト云。政元常ニ魔
法ヲ行ヒ。称ゾ潔齋ス。故ニ子ナレ下ノ屋形讚岐守元
勝ガ子ナ六郎澄元ヲ養テ子トス。然ドモ澄元未上洛
内ニ政元俄ニ詔レヌ。香西等ガハカラヒニテ。九條閑白

尚經ノ末子ヲ養ニ。細川九郎澄之ト号シ。政元カ養
子ト定ニトス。洛中騒動。香西等嵐山三城ヲ構テ楯
コモル。七月。澄元阿州ヨリ三好筑前守長輝等三千
騎ニテ。攝州へ出張。其ヨリ上洛。上京ニ陣レ。八月。
香西等ト百々ノ橋ヲ闇テ相戰。波々伯部先ガナケレ
テ。又倉ヲ討殺ス。香西モ矢ニ中テ死ス。其黨皆敗テ。
細川九郎モ害セラ。洛中靜謐ス。澄元武家ノ管領ト
ナル。政元今年四十二。天心院ト号ス。澄元時十六歳ナ
リ。長輝ハ信濃源氏小笠原ノ一族。阿波ヘ分レテ。阿
波小笠原十号ス。其子孫阿州三好ニ居ユヘ。三好ト
称ス。頼之以來。四國ス。テニ細川ニ属スル故三好モ其
旗下也。故ニ澄元ヲモリタテ。香西ヲ討リコレヨリ三
好ガ威漸アラハレテ。京ヲ窺フ心アリ。

五年正月。大内介多々良義興京都ノ乱。政元ガ死ラ
ケ。時分ヨレト思ヒ。前將軍源義尹ヲトリ立テ。筑紫中
國ノ勢ヲモヨホレ上洛。四月。細川右京大夫澄元。京
ヲ没落。阿波ヘ退ク。將軍源義澄モ。京ヲ逃出テ。江州
ヘ赴キ。佐々木ヲ賴マ。義尹泉堺ヘテ到着ス。五月。
三好長輝入道。希雲。阿波ヨリ攝州へ出テ。京都ヘ乱
入ス。細川佐々木等ガ兵ト牒シ合テ。大内介ト合戦ス。
三好敗軍レテ。希雲并其子長光。長則。京ノ百万遍
寺ニテ自害。六月。義尹入洛。七月。義尹從三位ニ
叙シ。大納言二任レテ。征夷大將軍ニ再任ス。大内介義
興幾内中國西海ノ成敗ヲ掌テ。管領ニ任ス。斯波細

川畠山ノ外他家管領ナルコト。是ヲ始トス。十二月。
義尹從二位ニ叙ス。明應二年ヨリ以來十四年義澄
治世。義尹西海へ流浪シ。今年義澄漂泊シ。義尹阪洛
復職。

六年六月。義尹參内。十月二十六日夜半。義尹ノ館
ヘ盜賊夜討シテ。其衆眾ヘ乱入。義尹自ラ出テ。防テ
討拂フ。疵ミズラ蒙ルコト九ヶ所。義澄并細川方ノ者。取爲
丸ベレ。同月。義尹軍兵ラシテ。江州ヘ發向セシム。十
二月。春日造替遷宮勅使藏入。并伊長參向ス。同

月。徳大寺前左府實淳太政大臣ニ任ス。

七年二月十四日。京勢江州ヘ發向ス。二十八日。京軍
敗セ。同月。上枚顕定ガ家臣長尾爲景。越後國ニテ
乱ラ起ス。顕定越後へ赴キ。爲景ラ攻。其近國處々ニ。
一揆起ケレバ。顕定打負テ。自害。年五十七。此人十四
歳ニテ。越後ヨリ鎌倉へ赴キ。関東ラ領スルコト四十餘
年。男子ナキニヨリテ。古河政氏ガ弟顕實ラ養テ子トス。
又憲實ガ孫憲房ラモ養子トス。

八年二月。徳大寺實淳太政大臣ラ辞シテ剃髪。年六十
七。同月。從二位ト部兼俱卒。斯年七十七。是ハ先祖兼
延ヨリ。代々吉田ノ神主ニテ。ト祝ノ役ラ勤ム。兼俱ニ到
テ。神道ラ佛法ニ引合セ。其術ラ解脱ス。八月。前將軍
從三位參議源義澄。江州岳山ニテ逝去。二十一年。山
清晃タカヒコト号シ。法住院ト称ス。後太政大臣從一位贈ラル。
同月。細川右馬助政賢四國東國ノ兵ラモヨホニ。京ラ

攻ト入將軍義尹。并大内介義興。京ヲ落テ丹波へ赴ク。
政賢入洛。義尹モ兵ヲアツメテ坂洛。政賢ト舟岡山ニテ
合戦。義興武勇ラ勵ス。政賢討死。義尹暫高雄山ニ陣。
洛中無爲ナルニヨリテ。九月。義尹帰京。妙本寺ニ居テ。其
後入營。

九年三月。大内介義興。從三位ニ叙ス。船岡山ノ軍功ラ賞
ジテナリ。

十年三月。義尹江州へ發向。軍敗。テ甲賀山ニ隠ル。五月。
坂京ニ。名ラ義植。ト改ム。十月。九条尚經。閑白并左府ヲ
辞ス。近衛前左府尚通。閑白ニ再任ス。

十一年三月。一条前閑白冬良薨ス。年五十一。此人モ父
兼良ノ業ラ續テ。著ス書少々アリ。八月。近衛尚通太

政大臣ニ任ソ。閑白ラ辞ス。鷹司右府兼輔。閑白ニ任ス。

十二年四月。兼輔左府ニ轉ス。三条内府實香右府ニ任ス。
正親町二条大納言實皇内府ニ任ス。是モ三条ノ庶流アリ。

十二月。實望内府ヲ辞ス。一条右大將尹房内府ニ任ス。

十三年四月。九条前閑白政基薨ス。年七十一。同月西三
条前内府實隆剃髮。ニ堯空ト号ス。逍遙院ト称。入時三六
十三歳。七月。北条早雲ニ浦城ヲ攻取。ニ浦道寸詔死。早
雲。ダ威関東二振。テ上枕漸表。フ。十二月。近衛尚通太政
大臣ヲ辞ス。

十四年正月元日。小朝拜。如例。鷹司。閑白兼輔。故障マリテ
不參。二条右府實香。上首三事ラ行。フ。十月。鷹司前閑
白相國政平薨ス。歳七十三。當閑白兼輔ノ父ナリ。

十五年三月兼輔閔白ヲ辞ス。一条内府尹房閔白二十
四月兼輔左府ヲ辞ス。同月嚴山殿奉中堂供養將
軍源義植登山。五月花山院前左府政長太政大臣三任
スニ三条右府實香左府ニ任ス。一条閔白尹房右府ニ任レ
テ。太政大臣ノ上三列ス。大炊御門、大納言、經名内府ニ任ス。
八月將軍源義植ノ執奏ニヨリテ中御門、大納言藤原宗
綱准大臣從一位ニ叙ス。同月從三位大内左京大夫義
興、武家ノ管領ヲ辭シテ周防國へ歸ル。義興在京十餘年。
武威ヲ振フト云トモ、八公家、武家ノ事ヲ執行フユ。雜用費
多ク、財寶漸減シケルユ。坂國スト云傳フ。此時朝廷衰
武將勢弱シ京都荒廢ス。故公家ノ内義興ニシタニミアル
モノ。連々周防へ赴ク者アリ。其外國セ、大名ノユカリアル公
家ハ在國スル者多シ。

十六年八月北条早雲死ス。九月義植源氏長者淳和
獎學西院別當ニ補ス。

十七年二月細川澄元ト細川高國ト權ヲ爭テ合戦高
國敗テ江州へ赴ク。高國ハ細川氏部政春、ガ子ナリ。政
元養子ノ約アリトナシ。五月高國又上洛。六月澄元
死ス。コレニヨリテ高國威ヲ振フ。攝州尼崎城ヲ構テ要害
立ス。或說ニハ。三条逍遙院入道ノハカラニミ。此時御即

位糸一。向宗本願寺ヨリ謁進ス此實ニ本願寺代々門
跡ニ准セラルト云リ 同月二十五日將軍源義植京都
没落シテ。淡路國ヘ蟄居是ヲ鳴ノ公方ト号ス 永正
五年將軍再任ヨリ今年六月十四年ニ及リ。細川高國
ガハカラヒニテ法住院義澄ノ子義晴。播州ニアリ。迎
ヘシム 六月、義晴入洛 七月三条實香左府ヲ辞ス。二
條、閑白尹房左府ニ轉ス。大炊御門、經名内府ヨリ右府ニ
遷ル。德大寺大納言公胤内府ニ任ス 同月源義晴從
五位下ニ叙ス。十一月、義晴正五位下ニ叙ス。左馬頭ニ任
ス。十二月、義晴元服。歲十一。細川武藏守高國加冠ノ
役タリ 同月義植官職ヲ停テ。義晴征夷大將軍ニ任
ス。高國管領トナル。剃髪シテ道永ト号ス。又常極ト改ム
二年二月、義晴從四位下ニ叙シ。參議ニ任シ。左中將ヲ
兼

三年三月。一条、閑白尹房左府ヲ辭ス。德大寺内府公胤
左府ニ任ス。大炊御門、經名右府ヲ辭ス。近衛、大納言植
家右府ニ任ス。久我、大納言源通言内府ニ任ス 四月。
前將軍大納言源義植阿波國撫養ト云トコロニテ逝去。
年五十八。惠林院嚴山ト号ス。此人ノ死去。暫沙汰ナ。數
年ヲ經テ風聞セリ。阿波淡路ハ細川ガ領國ナリ。義植ハ
細川三好ト旧怨アレバ。其臨終イブカレ。然レドモ其子孫。
淡路阿波ノ内ニ住ストナ。同年。細川高國商船ヲ大明
ニ遣ス。宋素卿ト云ル者ヲ使者トス。素卿ハ元来唐人十
リ。日本へ渡リ。細川政元ニ千十三。法住院殿ヘモ謁レ。其

使者トナリ。大明ヘ渡リ。日本ニ住居。高國ニ從ケルトナリ。此時大内介義興モ。周防ヨリ商船ヲ大明ヘ渡ス。宗設ト云ル使者タリ。寧波府ニテ。素卿ト宗設ト先後ヲ爭フ。宗設ハ素卿ヨリサキニ著岸スレバ。先ニ出ヘキヲ。素卿賂ヲ寧波府ノ奉行ニアタヘテ。先出テ奉行ニ謁ス。宗設大ニ怒テ。其召ソレタル者トモヲカタラニ。寧波府ヲ燒奉行ヲ殺ソ監妨ス。素卿逃カクレヒラ。大明ニテ捕ヘテ禁獄。宗設ハ事故ナク皈國スコレヨリ日本ノ海賊年々寧波ノ近邊ヲ濫妨ス。

五年正月元日ノ節會俄ニ畧セラル。其要脚未濟ニヨリテナリ。四月。一条尹房閑白ヲ辞ス。近衛右府樞家閑白ニ仕ス。六月近衛相國尚通其子閑白樞家同道春

日社參籠七ヶ日。神樂アリ。

六年二月十六日石清水八幡造替遷官將軍源義晴參向細川高國山中上ヲ警固。畠山植長ニシテ。山下ヲ守シム。山城構津ノ守護代路次ノ辻固ヲ勒ム。細川右馬頭澄賢伊勢守貞孝等武士多ク從フ。武家ノ傳券。廣橋大納言守光。日野中納言内光等モ扈從ス。善法寺ノ宿坊トス。鹿苑院殿以來ノ例ナリ。甲冑引劍神馬等ヲ奉納セラル。四月七日主上記錄所ニ崩ス。歳六十三年號文龜三年。永正十七年大永六年合テ在位二十六年。

百六代

後奈良院

諱知仁。後柏原院ノ子ナリ。母ハ准后藤子。

贈左大臣藤原教秀娘ナリ。永正四年四月十七歳テ元服親王宣下アリ。大永六年四月二十一歳ニテ践祚レターラ。閔白ハ近衛右大臣植家ナリ。將軍の宰相中將源義晴管領ハ細川高國入道常桓ナリ。同年九月徳大寺公胤左府ヲ辞ス。十二月義晴近國ノ射手ヲ召テ的始アリ。

七年三好長基入道海雲阿波國ヨリ出陣。泉堺ニ到テ京ヘ攻入。細川高國ト。桂川ニテ合戦。高國敗北ス。越前ノ朝倉孝景入洛シテ。三好ト合戦。三好敗軍。享禄元年八月近衛閔白植家左府ニ轉ス。久我内府源通言右府ニ任ス。九条大納言植通内府ニ任ス。今年七月好京ヲ攻テ騷乱ニヨリテ。將軍源義晴京ヲ出テ江

州へ赴キ。朽木民部少輔植綱カ許ニ居ス。植綱ヨク奉公ス。朽木ハ佐々木ガ一族ナリ。

二年。義晴朽木ニ逗留

三年正月勅使大外記清原良雄。朽木ニ赴キ。義晴大納言ニ任。從三位叙ス。時三二十歳。七月九条前閔白尚經薨ス。年六十三。

四年六月三好海雲等。故細川澄元ガ子晴元トテ。十三歳ナル大將トシテ。細川高國ト。尼崎天王寺ノ邊ニテ合戦。高國大敗テ逃去。三好ガ勢コレヲ追懸テ。高國が民家ニ馳入テ。大丸壺ノ内へ身ヲカクシ居テ見出レテ殺ス。高國ガ黨ニ鳴村某ト云モノアリ。勇力ノ士ナリ。敗軍ノ時敵一人ヲ左右ニ挾テ。余水其靈化メ蟹ト尤鳴

村解トニハ是ナリト云傳フ。ヤクニテ京中モレツル
天文元年。義晴朽木ヨリ坂京。細川右京大夫晴元管領
ニ任ス。好海雲威ヲ振フ。晴元ト不和ナリ。コレヨリテ海
雲泉壠ニテ害セラル。

二年一月。近衛植家閔白ヲ停ヒテ。九条内府植通閔白
ト尤。十二月。皇子方仁親王元服。加冠ハ一条前閔白尹
房理髮ハ頭巾將公朝也。

三年十一月。九条植通閔白并内府ヲ辞メ攝津國^ノ出奔
ス。十二月。一条尹房閔白三再任ス。

四年四月。義晴内書朝倉孝景ニ授テ。全興^{アリコ}三乘。コトヲ聴サ
ル。孝景軍忠アルニヘナリ。同月。慈林院義植ニ。太政大臣
臣從一位ヲ贈ラル。八月。三条前左府實香太政大臣

ニ任ス。十一月。西園寺大納言實宣内府ニ任ス。

五年一月。御即位^ノ。礼行^{ハシ}。公家武家零落^{ハシ}。今^ニ延引^ム。今度^ノ料^{ハシ}。大内介義隆^{ハシ}。が調進^ス。トナニ。義隆ハ
義興力子ナリ。三月。甲斐國武田晴信元服。時十六
歳。義晴諱^ノ字ヲ賜フ。晴信後ニ剃髮^{ハシ}。シテ信玄^ト号^ス。信
濃小笠原諫^{ハシ}。訪越後^ノ。村上^ノ。柴年々合戦。六月中納言
藤原兼秀勅^{ハシ}。使トシテ。周防國大内左京大夫義隆^{ハシ}。許
ヘ遣^{ハシ}。サル。義隆太宰^{ハシ}。大貳^{ハシ}。二補^セ。サル。七月。駿^{ハシ}山^ノ衆^{ハシ}。徒^{ハシ}群
起^{ハシ}。リ。京中^ノ乱^{ハシ}。入^テ放^{ハシ}火^{ハシ}。日蓮^{ハシ}黨^{ハシ}ヲ敵討^{ハシ}。洛中過半
焼亡^{ハシ}。十月。一条尹房閔白ヲ辞^ス。久我通吉右府ヲ辞
ス。三条實香相國ヲ辞^ス。十一月。近衛植家閔白三再
任^ス。

六年十二月。近衛、関白植家太政大臣ニ任ス。西園寺實宣左大臣ニ任ス。鷹司大納言忠冬、右大臣ニ任ス。七年相笏小田原北条氏綱ガ子氏康。八千ノ兵ヲ以テ武州河越城下ニテ。山内上松憲政、扇谷上松朝定ガ八萬ノ軍ヲ夜討テ大勝利ヲ得タリ。朝定ハ討ニ憲政ハ上野平井ヘ逃去。丙上松コレヨリ表テ。関東氏康ニ服ス。古河ノ御所晴氏ヲ。氏康妹婚トレテ。北条ヨリ指引。晴氏ガ一族賴純ヲハ喜連川ニ居レム。

八年六月。三好ガ黨類蜂起。京都物急。將軍義晴ハ瀬里ニ赴ク。朽木植綱供奉警衛ス。八月。一条大納言房通内府ニ任ス。房通ハ土佐一条房家ガ子ナリ。房家兼良ノ孫。教房カ子。又良カ姪ナリ。京都ノ兵乱ヲ避テ久土佐ニ住ス。又良子十キニユヘテ房通ヲ上洛セレメテ。督トレテ其繼嗣トス。

九年十一月。西園寺實宣左府ヲ辞ス。今年出雲國尼子晴久。安藝吉田城主毛利元就ト合戦始ル。尼子、佐々木ガ一族ニテ代々出雲國ニ住ス。兵威ツヨクシテ。近國ヲ打レタカフ故ニ元就モ其旗下ナリ。ニガ晴久ニ疑ハ。不和ナルニヨリテ。大内介義隆へ従フ。晴久怒テ。數万ノ勢ニテ吉田ノ城ヲ圍ム。大内カ家老陶尾張守晴賢加勢ノタメニ來テ對陣。尼子敗軍返國ス。

十年正月。鷹司忠冬、左府ニ轉ス。一条房通右府ニ任ス。西三条大納言公條内侍ニ任ス。公條ハ實隆ガ子ナル。是モ倭漢ノ才アリニ博學ハ父ニコヘタリ。三月公條

内府ヲ辞ス。轉法輪三条大納言公頼内府ニ任ス
十二月大内介義隆從三位ニ叙ス太宰大貳八元ノコ
トレ今年將軍義晴坂本へ出陣。佐々木定頼等從ヒ
奉ル

十一年二月近衛閑白植家上表。三月鷹司左府忠
冬閑白ニ任ス。閏三月忠冬、左府ヲ辞ス。一条右府房通
左府ニ轉レテ。西二条前内府公條右府ニ任ス。今年
春大内介義隆自ヲ軍勢ヲ率テ出雲へ發向尼子晴
久^久力富田城ヲ攻陶尾張守晴賢毛利元就モ從^ソ城
強^クレテ五月大内勢敗軍元就殿後タリ故ニ尼子追
ニトアタハス義隆子ナクレテ土佐一条殿ノ子ヲ養フ。
テ新介上称ス。此戰ニ討レヌ。其後元就時々周防ノ山

口ヘ赴テ義隆ニ謁ス。家老陶晴賢が遊心アリテ。義隆
ト不和ナルベキヲサトリテ。安藝吉田城へ取テ。其変ヲウ
カヘヒ待ケリ。八月駿河國主今川義元遠江國^ヲ打シ
タガヘ參河へ出張。尾張國織田彈正忠信秀ト。小豆
坂^ヲ戰^テ。義元敗北。十二月廿六日。三源家康公參河
國岡崎ニテ御誕生清和天皇ヨリ一十六代御苗裔^ヲ八
幡太郎義家^ヲ嫡孫贈鎮守府將軍新田大炊助義重
男得川義季ヨリハ十六代贈大納言廣忠卿ノ御子
方。御母公傳通院殿ト申ス水野右衛門大夫忠政が娘也
十二年七月西三条公條右府ヲ辭ス。三条内府公頼右
府ニ轉ス。今出川大納言公疾内府ニ任ス
十三年二月西三条前右府公條剃髮。歳五十八法

名仍覺セイウ稱名院ニムヒヤウ上号シテノメス。父逍遙院入道タケミツヨウイエン天文六年十月三薨ミマサニス七月洛中洛外太洪水

十四年六月鷹司忠冬閑白タカシキシタケルホヲ辭ス。一条左府房通土佐ヨリヨリ上洛。閑白ニ任ス。三条公頼右府ヲ辭ス。今出川内府公亥右府ニ任ス。一条左大將晴良内府ニ任ス。房通公京都土佐往来せリ。房通ノ弟房冬、公土佐一条ノ家ラツク其外ノ公家モ在京ナリ。カタキニヤ。二条前閑白尹房ハ備後ニアリ。後三周防へ赴キ。大内介ラタノミ。九条前閑白植通攝津ニアリテ播磨へ移リ。三条右府公頼飛鳥井大納言雅綱公越前へ下向。時々在京ス。冷泉大納言爲和ハ駿河三赴。其餘或閑東へ下リ。或伊勢美濃ノ邊ニヤスラ。武士ニ寄食スル

モノ多シ。偶在京せ。輩ヒトヅメハ朝タノタクワ足アシサヘトホシケ。人家二翻ツブンモノモアリト。

十五年正月一条閑白房通左府ヲ辭ス。三条公頼左府ニ任ス。三月公頼辭退。今出川公彦左府ニ任ス。二条晴良右府三轉任ス。万里小路大納言藤原秀房内府ニ任ス。七月秀房辭退。一条大納言兼冬内府ニ任ス。同月將軍義晴ノ子義藤十一歳從五位下ニ叙ス。九日日吉ノ神主樹下。カ宅ニテ。義藤元服。義アリ。武家ノ管領ニヨリテ。佐々木六角彈正少翁定頼ヲ四品ニ叙。管領代トニテ。加冠ノ役ヲ勤シ。理髮ハ細川中務大輔晴經アシハタケルナリ。打乱ハ佐々木民部少輔植綱消坏公

佐々木中務少輔高保ナリ。二十日義藤征夷大將軍ニ任レ正五位下ニ叙シ。左馬頭ニ任ス。義晴公右大將軍任セラル勅使廣橋大納言兼秀等禄ヲ授ラル。此時細川晴元并ニ好ガ一族攝州ニ出張。京都物忿ニヨリテ坂本ニテ執行トナ

十六年二月。大内介義隆進貢船ヲ大明へ遣ス。廉苑院殿ノ比ヨリ。大内介代。異國往来ノ事ヲ掌テ勘合ノ印ヲアツカリ。周防國ニテ船ヲ作リ。使僧ヲ發船せシムル例ナリ。同月今出川公彦左府ヲ辞ス。一条晴良左府ニ轉レ。一条兼冬右府ニ任レ。近衛大納言晴嗣内府ニ任ス。將軍源義藤參議ニ任シ。左中將ヲ兼シム三月。細川右京大夫晴元并ニ好ガ一族京都へ押寄

ントスルニヨリテ。義晴義藤北白川城ニコモル。四月。晴元四國ノ勢ヲ率テ。東山三陣。北白河ノ邊ヲ放火シテ攝州へ坂ル。七月。晴元入洛相國寺三陣ス。佐々木彈正定頼公晴元が舅ナルユヘ。江州ノ兵ヲモヨホ。北白河城ヲ圍ミ。義晴義藤城ヲ焼テ坂本へ赴ク。晴元定頼共ニ其罪赦免セラレテ。坂本へ参テ謝ス。

十七年六月。義晴義藤坂洛晴元管領タリ。十二月。一条房通閑白ヲ辞ス。一条左府晴良閑白ト丸。今年大内義隆從一位ニ叙ス。

十八年三月。二好筑前守長慶ト。ニ好宗三ト攝州ニテ諍論ノ事アリ。細川晴元ヒトヘニ宗ニラ見負シ。長慶怒テ宗ニガ居ケ牛中嶋城ヲ攻破ル。宗ニ江波城ニ入ル。細

川晴元ハ三宅城ニコモル佐々木定頼モ晴元ニカヲ合ヘ
レト約ス。長慶等故細川高國ガ子次郎氏綱ヲ取立
テ。大和河内ノ勢ヲシタガヘテ。中鳴ノ城ニコモル長慶。希
雲ガ孫海雲ガ子ナリ。六月。宗三江波ヲ出テ。江口ニ出
陣。長慶其弟十河民部一存。同ク三宅ノ城ヲ攻。江
口ヘモ打出ケレハ宗三ハ討死。晴元ハ城ヲ出テ營三入
洛佐。木定頼ガ子左京大夫義賢。三万餘ノ勢ニテ。
近江ヲ出テ。京中ニ陣シケル。が晴元が敗軍ヲ聞テ近江
ヘ坂ル。コレニヨリ元前將軍義晴當將軍義藤。并細川晴
元等以下。京ヲ落テ坂本ニ赴ク。七月三好長慶入
洛。巡見シテ攝州へ坂ル。松永彈正久秀ラ。京都ノ
留守トス。十一月。義晴不例。今年尾州ノ織田備後。

守元ハ弾信秀死去。其子上総介信長。其跡ヲ相續ス。國
中并近國ノ敵トモ打レタカヘテ。武威大ニ振フ。

十九年二月。細川晴元佐々木定頼如意獄城ヲ築ク。
三月。義晴新城ニ移ラシトテ。坂本ヲ出テ。穴太。山中ニ警
逗留ス。不例ラモキニヨリテナリ。五月四日前。征夷大
將軍大納言兼右大將源義晴。江州穴太。山中ニテ逝
去年四十。萬松院ト号ス。左大臣從一位ヲ贈ラシ大永
元年ヨリ今年ニテ。治世三十年ナル。義藤移テ比歡過
ノ寶泉寺ニ居ハ。晴元定頼義賢警衛ス。十一月。三
好長慶。攝州ヨリ上洛。東山放火進テ。大津松本ニ到
晴元等が家人敗走。

二十年三月。三好長慶洛中地子錢ノ事ヲ下知ス。

七月。晴元が郎從相國寺ニコモル。長慶押寄テ放火。
八月。大内介義隆が家老陶尾張守晴賢謀叛シテ。義
隆が居城山口ヘ押寄。義隆敗軍。若見吉見正頼ノ
タノニトニ落行ケルヲ。陶が兵追カケレバ。九月朔日。義
隆長門ノ深川大寧寺ニ自害。年四十五。冷泉判官
高豊等以下數十人。一死二死又此時三条前関白尹
房。三条前左大臣公頼。左中將藤原良豐。京都ノ兵
乱ラ避テ。義隆カ許ニアリテ。同ク害セラル。中納言藤
原基頼。右兵衛督藤原親世。一所ニアトリケルガ髮ヲ
剃テ逃去ス。陶晴賢ハ兼テヨリ約諾アルニ。陶安房
守ラ使トシテ。豊後ノ大友宗麟ガ弟。三郎義長ヲ。周
防山口ヘ呼テ。大内身跡ヲツカレメ。晴賢已カホシヒテ
ニ執行フ。剃髮シテ全姜ト号ス。義隆討レシ時。大
内勘合ノ印判失テ。日本太明渡海止ス。此時分ヨリ。
南蛮ノ船來テ。耶蘇ノ宗旨起レリ。大友宗麟。此宗ニ
ヲモミキナルトナシ。今年相州北条氏康。上野平井城ヲ
攻落ス。上秋憲政越後逃行。憲政が子龍若ハ。生捕
レテ害セラ。憲政ハ越後落テ。長尾景虎入道謙信
ヲ憑ミ。上杉ノ氏。并閑東管領号ラ。景虎ニユツリ。北条
ヲ討テ耻ラス。カント子カフ。閑東太半氏康ニ属ス。然レ
トモ。此時今川義元ハ駿河ニアリ。武田信玄ハ甲斐ニアリ。
長尾景虎ハ越後ニアリ。安房三里見アリ。佐竹義重ハ
常陸ニアリ。葦名盛高ハ會津ニアリ。閑東ノ合戦ヤムコ
トナレ。其外越前朝倉アリ。能登二畠山アリ。美濃二土

岐齊藤アリ。尾張ニハ織田信長アリ。伊勢ニハ國司北畠アリ。近江ニハ佐々木定頼義賢アリ。幾内南海ニハ三好松永ガ一族。播磨備前美作ニハ赤松カ餘類字喜田カ一族。中國ニハ陶全姜毛利元就尼子晴久吉見正頼カ徒相争フ。豊後ニハ大友カ族肥前ニハ龍造寺隆信アリ。薩摩大隅ニハ鳴津義久アリ。諸國相分テ。一日モ齋ナラス。

二十一年正月將軍源義藤坂本ヨリ歸洛。細川晴元ノ剃髮レテ。堅田ヨリ出奔ス。二月細川氏綱并其弟藤賢攝州ヨリ上洛。三好長慶同道。三月氏綱ハ右束大夫ト号シ。藤賢ハ右馬頭ト号ス。代代管領ノ名ヲ存ストイヘトモ。細川ハ襄テ。ニ好遂ニ洛中幾内南海ノ權ヲ執リテ。攝津ニ住ス。三好ガ家火松永彈正久秀在京。其威三好ニヒトシ。十一月一条閑白晴良左府ヲ辞ス。

二十二年正月。一条晴良閑白ヲ辞ス。一条右府兼冬閑白トナリ。左府ニ任ス。近衛内府晴嗣右府ニ任。西園寺大納言公朝内府ニ任ス。七月將軍源義藤細川晴元ヲユルレテ。帰洛セム。八月三好筑前守長慶二万人ヲ率テ入洛。義藤并晴元丹波へ没落。十餘日ヲ経テ帰洛。

二十三年二月。一条閑白兼冬薨ス。年二十六。同月義藤名ヲ義輝ト改ム。三月近衛右府晴嗣閑白トナリ。左府ニ任ス。名ヲ前嗣ト改ム。四月西園寺公朝

右府ニ任ス。正親町三条大納言公光内府ニ任ス。即
辞退

弘治元年。安藝ノ毛利元就。周防ノ陶全姜。年々合
戦ス。今年十一月。元就俄ニ全姜ヲ攻テ戦勝。全姜自
害。大友義長。長門ニテ自害元就遂ニ長門周防ヲ
討平ク。其嫡子隆景。皆軍事ニ達セリ。元就ハ。其ヨリ備
其次小早川隆景。皆軍事ニ達セリ。元就ハ。其ヨリ備
中ニ出張。備前ノ宇喜田直家。和ヲ乞ニヨリテ帰陣。
隆元ヲ周防ニ留メ。豊後ノ大友ヲ押メ。元就并元春
隆景。出雲ヘ發向。富田ノ城ヲ攻メ。尼子晴久ト合
戦シ。年月ヲ送レリ。

二年七月。大明ノ使者鄭舜功。豊後ヘ來リ。書簡ヲ京
都ヘ捧ク。筑紫ノ海賊。大明ノ邊境ヲ蠶妨スルコトヲ訴
キ。返簡ヲ遣サル。

三年九月。近衛關白前嗣左府ヲ辞ス。西園寺公朝
左府ニ任ス。花山院内府家輔。右府ニ任ス。廣橋大納言
兼秀。内府ニ任ス。即剃髮。同月五日。主上崩ス。年六十
一年。号ヲ践祚ノ翌年ハ。大永七年ヲ用。其次。享禄
四年。天文廿三年。弘治三年。在位合三十一年。

百七代

正親町院。諱方仁。後奈良院ノ子ナリ。母ハ贈皇后榮
子。參議藤原賢房カ娘ナリ。弘治三年。十一月二十七
日。践祚。時二歳四十二
永祿元年。三好松永ガ乱ヨリ。將軍源義輝并細川

晴元朽木へ沒落。九月義輝并晴元坂本ヨリ進發し。勝軍山ノ城ニ旗ヲ立ル。松永彈正ト白川三三合戰。

十一月ニ好長慶ト和睦。義輝ハ帰洛。晴元ラバ
芥川ニ内ヘ蟄居せレメ。年ヲ経テ死ス。

二年五月越後長尾景虎入洛。義輝ニ謁。關東管領職ヲ申請。又輝ノ字ヲ受テ。輝虎ト号ス。月ヲ經テ帰

國。

三年正月御即位禮行ル。此料毛利元就調進ニヨリテ。大膳大夫ニ任シ。菊桐ノ紋ヲ賜。後ニ陞奥守ニ任ス。元就ハ。大江廣元ガ末ナリト称ス。故大膳大夫。陸奥守皆廣元カ例ヲ慕ケルニヤ。五月今川義元駿河ヲ發ヒ。遠乃參勅ヲ歷テ。尾州桶狹間ニテ織田

信長ト合戦。義元討死。信長遂尾張・國ヲ平均ス。此時家康公參州岡崎城ヘ入御。九月近衛閑白前嗣越後ヘ下向。當職ノ執柄。他國三居公是ヲ始トス。十月長尾景虎姓名ヲ上校輝虎ト改メ。越後ヲ發ル。閑東ヘ出張。管領ト称ス。上野ノ沼田厩橋名和等ノ諸城ヲ攻落ス。

四年正月ニ好修理大夫長慶。カ子。筑前守義長上洛。義輝ニ謁ス。新宅ヲ築キ。義輝ノ渡御ヲ望ム。義輝譖諾ス。三月長慶河内飯盛城ヨリ入洛。同月晦日。義輝威儀ヲツクリヒテ。義長ガ宅ヘ來臨。饗應猿樂等アリ。其後義長カ器量アルラ。松永彈正久秀ハツカシク思ヒ。密ニ毒ラス。メテ殺ス。長慶既ニ老タリ。其弟十河一

存カ子義繼ヲ養テ繼嗣トス。松永弥權ヲ振リ

今年ノ春上杉輝虎関東ノ諸士ヲカタラヒ北条氏康
ノ戰ヒ勝ニ乗テ。小田原へ攻入城門蓮池ノ邊ニテ押詰
城既ニ危シ。然トヨロニ輝虎鎌倉鶴岡へ參詣成田長康
ガ不礼ナルヲ怒テ。扇ヲ以テ頬ヲタツツ成田忍城ニ帰テ
謀叛ス。ヨリ関東武士皆輝虎ヲ背ク。輝虎越後へ叛
ル。關東又氏康ニ屬ス。其秋輝虎上野信濃へ進發シ
九月十日河中嶋ニテ甲斐ノ武田信玄と合戰。各飯
國輝虎信玄。牛角ノ敵ニテ。上州ヲ爭テ數年對陣
五年春毛利元就。豊後ノ大友ト合戰ス。義輝ヨリ聖
護院門跡道澄ヲ元就へ遣シ久我大納言源通典ヲ大
友へ遣シ。和睦せし。元就が嫡孫輝元ヲ大友ガ婚トスベ

レト約シテ。戰ヲ止ム。今年近衛前嗣越後ヨリ帰京
名ヲ前夕ト改ム

六年正月安房ノ里見。并武州岩築太田三樂等北条
氏康。并其子氏政。上武州國府臺ニテ合戰。里見等
敗北。十一月三条。称名院入道仍覺薨ス。年七十七
今年毛利元就出雲富田城ヲ攻落ス。厄子晴久降参
ス。元春隆景コレヲ殺シ。元就其死ヲタメテ。安藝
ヘ遣シ。囚ヘ置。弘治二年ヨリ今年ニテ。七年ハカリ對陣
セテ厄子没落ス。元就が領スルトヨロ。安藝周防長門備
中。備後。因幡伯耆出雲隱岐石見。合十ヶ國ナリ。十
州太守ト称ス。ヨリ以後。ハ豊後ノ大友ト合戰シ。又
四國ヘモ出張。又備前ノ宇喜田直家トモ。年々合戰

ス元就ハ漸老タルユ。吉川元春。小早川隆景ヲシテ。出陣セレム。直家ハ元来赤松ガ家人ナリ。赤松ガ家臣浦上某。赤松ヲ追出シテ。播磨美作備前ヲ奪フ。百家又浦上ヲタマシテ。其地ヲ押領ス。ト云傳フ。

七年織田信長。美濃ヲ攻取テ。齊藤龍興が一族ヲ平。テ尾州清洲ヨリ。美濃岐阜ノ城ニ移居ル。

八年五月將軍源義輝。武威襄テ。三好松永ガ逆謀ヲ犯フコトヲ懲テ。密ニ誅罰ノ事ヲ議スルヨシ風聞ス。同月十九日。二好左京大夫義繼。并松永。彈正方子右衛門。久通等兵ヲ率ヒ。御所ヲ圍。警衛者戦死。義輝モ自ラ出テ防戦ニ努。盡テ火ヲ放キ。營門焼テ。義輝死ス。歳二十。母慶壽院モ同沒ス。義輝ノ弟二人アリ。一人ハ奈良。

一乘院門跡覺慶。上云。一人ハ鹿苑寺周嵩。上云。周嵩。カバニ好松永。使ヲ遣シ招キテ。出京ノ路ニテ誅殺ス。覺慶ハ早クサトリテ。春日山ヲ踰テ近江國へ赴キ。佐々木義賢入道承禎。又云。ノミ居テ。還俗シテ。義昭。号ス。六月。義輝ニ左大臣從一位ヲ贈リ。光源院ト号ス。天文十五年ヨリ。將軍ニ任。十九年ヨリ治世。今年。テ十六年。允尊氏建武二年入洛セシヨリ。今年。テ。或父子。或兄弟相續シテ。將軍十三代。合二百三十一年。九年十二月。源義榮叙爵。

十年八月。佐々木承禎。又云。義弼。密ニ好上内通。ニ義昭ヲ弑シテ。又云。義昭聞テ。若狭ヘ逃行。武田義統ヲ頼テ。ニ好追討ヲ議セラケ。モ叶ガタキ。越前。越。朝倉右

衛門督義景ヲ頼ニ暫居住せラレ

十一年一月左馬頭源義榮征夷將軍ニ任サテル 五月
上校謙信北条氏康と和睦シ。氏康ガ末子三郎ヲ養
テ子よス 七月義昭越前ヨリ細川兵部大輔藤孝
上野中務大輔清信ヲ使者トし美濃岐阜へ遣シ。織田
信長ヘニ好追討ノ事ヲ憑ケル。信長許諾シ不破河内
守浅井備前守長政ヲ副テ。義昭ヲ迎エ。義昭即岐阜
(赴ク) 八月信長江州へ出張。使者ヲ以テ佐木承
楨ニ。二好追討ノ事ヲ談ス。義楨同心セズ。九月信長
兵ヲ率テ。承楨カ領内箕作城。和田城等ヲ攻落ス。承
楨及子義弼。觀音寺城ヲステ、沒落ス。江州處々ノ
城皆陷シ。義昭岐阜ヨリ江州守山到ル 同月京都
ニテ將軍源義榮腫物ヲ病テ卒ス。同月二十八日
義昭信長入洛。義昭ハ清水寺ニ居リ。信長ハ東福寺居
リ。十月義昭信長攝州ニ移向ニ。二好カ一揆ヲ攻平
ク。松永弾正久秀以下。二好カ黨降参スル者多ニ。畿
内平均。義昭六條本國寺ニ住シ。信長ハ清水寺ニアリ。
同月十八日。義昭征夷大將軍ニ任シ。參議左中將ニ昇進
シ。從四位下ニ叙ス。十一月近衛閑白前久武命ニ達ヒ
職ヲヤメラレテ。一条晴良再任ス。十二月皇子誠仁親
王宣下。元服加冠ハ晴良理髮ハ經元朝臣ナリ 同月
今川義元ガ子氏真没落。武田信玄駿河ヲ取ル。北条
氏政兵ヲ遣シ。氏真ヲ救フコレニヨリテ。北条武田合戦
止コトナシ

十二年正月、好か餘黨京都へ乱入。義昭拒テ退ク。
信長岐阜ヨリ上洛。一条ノ御所ヲ造テ義昭ヲレテ居
シム。五月、信長岐阜ニ坂^{カタ}木下藤吉郎秀吉^{スガキ}、京都ニ
留テ義昭ヲ守^{モラ}。秀吉^{スガキ}、尾州愛智郡中村郷ノ微賤
久ナリ。初ハ遠乃^{アリ}松下之綱^{ツチヤ}ニ仕^ル。永禄元年ヨ
リ。信長ニ謁^ル。數度軍功獲^ル。群^ツ次第^ツ登庸^シ。如^ク此
六月、義昭從三位叙^ル。大納言^シ任ス。八月、信長伊
勢國ヲ攻破。國司北畠具教^{ヒサト}其息女ヲ。信長ノ次男
信雄^{ヒカル}嫁^{シテ}。國ヲ譲^ル。然トモ具教遂ニ害せ^ラレテ。勢
州平均^シ。十月、武田信玄関東へ出張^ス。北条^{カミ}が兵ト
二増山^{ツツヅケ}合戦。信玄勝利^シ。得^メ。十一月、信長
上洛内裏ヲ修理セシム。今年、蒙康公^{マツコウ}遠乃^{アリ}濱松
城へ入御。參^ス勅^ス遠乃^{アリ}ノ間ニテ。年七、御合戦。并^シ信長處
奥^ノ出陣ニ御加勢ツカハサル。其御軍功最^{イチ}ニル。シ
元亀元年四月、信長越前へ發向。朝倉義景^ガ手筒
山^{カツヤマ}金崎城^{カツヤマ}ヲ攻落ス。時、浅井備前守長政謀叛^シ。信長
ノ後ヲサヘキル。信長驚^テ。秀吉^{スガキ}ヲシテ。朝倉ヲ押^{シメ}テ。
朽木谷^{カツキヤマ}ヲ經^テ入洛。此時、家康公後殿^{カミコウ}シタ^フ。五月
信長岐阜へ坂^{カタ}ル。千草越^ス過ルトキ。佐々木承楨密^{シカ}ニ
松谷善住房^ラレテ。鉄鉢ニテ信長ヲ子ラ^シ其放^ツ。兩
王信長^ノ著衣ニアタル。信長辛^{サクシ}ニ免テ帰城。六月、浅
井長政朝倉義景^{江州}姉川ニテ信長ト合戦。家康
公御加勢ニヨリテ。朝倉淺井敗軍^ス。同月、毛利元就
安藝吉田入郡^ス。山ニテ病死。年七十五。嫡男隆元早世^ス。

ヨリテ。嫡孫右馬頭輝元。遺跡ヲ相續ス。吉川元春小早
川隆景コレモリタツ。八月三好山城守同日向守等。
攝州ニ^{ホウキ}峰起。九月信長攝州ニ發。四義昭モ出陣。大坂
本願寺門跡光佐モ信長ヲ叛ク。信長ノ兵コレト戰フテ。
利アラスレテ退ク。前田利家殿後シテ敵ヲ防ケ。此時
朝倉浅井。又江州ニ出張殿山ノ衆徒同意ス。信長義
照攝州ノ戰ヲヤメテ。阪洛ノ江州へ赴テ。殿山ヲ攻
十月北条左京大夫氏康病死。年五十六。氏政其跡ヲ
續^{ゲル}。氏政ハ信玄カ^合婚ナルニヨリテ和睦。十一日。義昭ノア
ツカヒニテ。信長ト朝倉浅井ト和睦ス。佐々木承禎ハ既
信長ヘ降参。

二年九月。信長江州へ出張。比叡山ヲ燒破ル。明智光
秀ヲ坂本城ニ居セヨリサキ。武田信玄京都へ攻
上ントスル志アリテ。密ニ義昭へ内通。朝倉浅井并敵
山ノ僧徒ヲカタラヒテ。信長ヲ討シトカル。信長コレヲ
ヨリテ敵山ヲ亡ス。

三年正月。勸修寺ノ大納言藤原尹豊内府ニ任ス。年七
十。即辞退ス。七月。信長ノ嫡子信忠初テ江州へ出
陣。浅井朝倉カ兵ヲ破ル。十二月。武田信玄遠州ノ
言坂ニ出張。三方原ニテ。家康公ト合戦。

天正元年正月。信長條數ヲ以テ。信玄方罪ヲ義昭ニ
訴フ。信玄モ使者ヲ以テ。信長ノ罪ヲ數テ義昭ニ訴
フ。信長義昭不快。二月。義昭要害ヲ石山堅田ニ構
エ。信長ヲ指テ敵トス。信長怒テ柴田勝家丹羽長

秀明智光秀等ヲ遣テ。石山堅田ノ城ヲ攻破ル。三月信長上洛。義昭和睦ヲ乞。信長ユルレテ岐阜へ皈ル。四月武田信玄死ス。年五十三。其子勝頼相續シテ。甲斐信濃駿河并上野ノ内ヲ領ス。六月万里小路大納言惟房内府ニ任ソ。即日薨ス。年六十一。七月義昭又信長ニ敵シテ。宇治真木島三楯籠ル。信長急キ上洛。宇治ヘ發向。真木嶋ヲ攻ヤ。フル義昭死罪ヲ宥ミコトヲ請信長憐シテ。佐久間信盛木下秀吉ヲシテ。義昭ヲ河内ノ若江ノ城ヘ送テ。蟄居セシム信長其餘黨ヲ平テ。岐阜ヘ帰ル。義昭流浪シ。剃髪シテ昌山ト号ス。後ニ靈陽院十称ス。八月信長越前ヘ發向。朝倉義景戦敗テ。一乗谷ニ隠ル。其家老朝倉式部景鏡田中忠ニテ。義景ヲ殺テ降參。越前平均信長兵ヲ返シ。江州小谷ヲ攻破ル。淺井備前守長政其父下野守入政共ニ自害。秀吉ヲシテ小谷城ニ居レム。九月信長江州鯰江城ヲ攻落。佐々木義弼没落。枝谷善住房ヲ捕。竹鋸ニテ截殺ス。十一月信長河内ヘ發向。十三好左京大夫義繼ヲ攻殺ス。二年二月花山院家輔右府ヲ辞ス。九条大納言兼孝右府ニ任ス。三月信長ト洛參議ニ任シ。従三位ニ叙ス。同月信長奈良ニ赴テ。東大寺ノ蘭奢待ラキラレ。日野大納言資定飛鳥井中納言雅教勅使タリ。佐久間信盛等奉行タリ。四月信長阪京大坂本願寺路ヲ遮ル。佐久間信盛ヲ天王寺ニ留メ。本願寺

ヲ押シメテ岐阜へ皈ル 七月信長信忠尾州へ發向
長嶋ト向宗ノ一揆ヲ攻破ル此時本願寺信長ニ叛
ク故其門徒諸國ニテ蜂起

三年三月信忠出羽介ニ任ス 五月武田勝頼遠州ニ
出張シ長篠城ヲ圍ム 家康公加勢ヲ信長ニ乞冬ノフ
信長信忠大軍ヲ率テ出陣ス長篠ニテ合戦 家康
公ノ御先手勇三進ム信長ノ大勢ツキテ攻勝頼大
敗ル死著甚多是ヨリ以後甲州勢ト數度遠易駿
易ニテ御合戦アリ 六月信忠正五位下ニ叙ス
八月朝倉ガ餘黨蜂起ス信長信忠越前ニ發向シテ
皆平ノ越前ヲ柴田勝家ニアタヘテ北國ノ鎮トス
十一月信長上洛 権大納言ニ任シ若大將ヲ兼シ信
忠秋田城介ニ任ス 同月一条大納言内基内大臣
ニ任ス 十二月秀吉ヲ旄前守ニ任ス メヨリサキ秀
吉自ラ羽柴氏ト号ス柴田勝家丹羽長秀カ信長ノ
旧臣ニシテ威凶アルラ羨テ一入ノ氏ラ一字ツ取テ
已カ氏ヒセリ 今年近衛前閔白前久薩摩ヘ下向
ス一年ラ經テ帰洛ス

四年正月信長江州安土城ヲ築ク信忠從四位下ニ
叙ス 二月信長安土ニ移居信忠ラ岐阜ニ居ム
三月西園寺公朝左府ヲ辞ス 四月本願寺光秀
木津難波ノ城ヲ構 五月信長義高佐久間右衛門
尉信盛等ヲ攻シム 八月信忠從四位上ニ叙ス
十一月信長入洛九条兼孝左府ニ任ス 一条内基

右府ニ任ス。信長内府ニ任ス。正三位ニ叙ス。十二月。

信長参河ノ吉良ニ狩ズ

五年正月。信忠正四位下ニ叙ス。二月。信忠信雄。信孝。紀州へ赴テ。雜賀ノ一揆ヲ退治ス。信孝ハ信長ノ三男ナリ。七月。近衛前久ノ子信基元服。信長。誦テ加冠セレメ。信ノ字ヲ授ラル。前久後ニ龍山ト号シ。信基八三藐院ト号ス。八月。松永彈正久秀。大和信貴ノ城ニコモリ謀叛。本願寺并雜賀ノ餘黨ヲカタラフ。九月。信忠進發。十月。信貴ノ城ヲ攻落。久秀焚死。其子久通執ヘラレテ殺サル。信忠ハ上洛。從三位ニ叙シ。左中將ニ任ス。信忠安土ニ赴キ。坂阜ヘ皈ル。同月。信長播磨ヲ秀吉ニアタヘテ。中國ヲハカラシ。秀吉即播州へ赴キ。十一月。福岡上月ノ城ヲ攻落。又組馬國ヲ擊。取ル。宇喜田、直家ハ備前美作ノ兵ヲ以テ秀吉ニ属ス。同月。九条兼孝左府ヲ辞ス。一条内基左府ニ任ス。信長右府ニ任ス。一条大納言昭實内府ニ任ス。今年越後上杉謙信。関東北國へ兵勢ヲシテ入洛シ。テ信長ト一戰セント欲ス。筑紫ニテ。大友左衛門尉義鎮。其子義統。豊前豊後筑前筑後肥前肥後ノ兵ヲ催テ。日向國へ發向ス。鳴津義久。薩摩大隅日向ノ勢ヲ以テ。大友ト合戦。大友敗。北ヨレニヨリテ。肥前ノ龍造寺隆信。又千千大友ニ背ク。肥後國城主親政ト云ハ菊池ノ末ナリ。レカ是モ大友ヲソノケ。九州大乱。テ。鳴津大友龍造寺等合戦不正。

六年正月信長正一位ニ叙ス。三月越後ノ上松謙信死。年四十九。
養子比条二郎其跡ヲ相續ス。謙信が姪喜平次景勝
上三郎ト相争テ合戦ス。上松憲政猶存。生三子。アツカフト
云トモキカス。比条氏政加勢ヲ遣シテ。二郎ヲ救フ。武田
勝頼景勝ガ賂ヲウケテ。加勢ヲ景勝へ遣シ。三郎ヲ殺
ス。憲政モ同ク害セラ。景勝越後ヲ領スコレヨリ氏政ト
勝頼ト不和。四月。一条晴良。關白ヲ辞ス。信長モ右大
臣右大將ヲ辞ス。同月毛利輝元播州へ出張。秀吉ト
對陣ス。七月信忠井伊丹羽長、秀吉秀川一益等播州へ
出張。神吉城志方城ヲ攻落ス。秀吉ヲレテ同國三木
城ヲ攻レム。十月荒木攝津守村重攝州ニテ謀叛メ。
伊丹城ニコモル。信長信忠發向シ。諸將ヲシテ攻シメテ。
安土ニ返ル。十一月九条兼孝閑白トナル。一条内基左府
二任ス。

七年正月九日。一条昭實右府ニ任ス。西三条大納言實
枝内府ニ任ス。九二日。實枝内府ヲ辞ス。九四日。實枝薨
ス。年六十九ナリ。九七日。菊亭大納言晴季内府ニ任ス。
實枝初名ハ實澄。又實世トモ實延トモ云リ。法名ハ豪空
三光院。上号ス。是ハ逍遙院實隆ノ孫。称名院公條ノ
子ナリ。父祖ノ業ヲウケテ。安漢ノオアリ。故ニ清華ノ嫡
流ナラズ。ト云トモ。三代相繼テ任櫻ノ榮アリ。一月信長
上洛攝州進矣。四月廿七日鳥丸大納言藤原光康准
大臣。同日ニ薨。年六十七。同九日。一条前閑白晴良薨。
年五十四。五月信長安土ニ帰ル。承土宗上日蓮宗十

宗論アリ。六月明智光秀川波國ヲ平ク。八月信長攝州へ進發。十月伊舟城没落。荒木攝津守村重逃去。其一族妻子ヲ生捕。洛中ヲワタニ斬罪。

八年正月秀吉播州三木城ヲ攻落ス。城主別良小三郎長治滅亡。二月菊亭躉季内府ヲ辞ス。徳大寺大納言公維内府ニ任ス。七吉父公維辭退メ。晴季内府ニ再任ス。同月大坂本願寺門跡光佐頭如ト勅詔ニ應ジテ。大坂城ヲ信長へ渡レテ。紀州雜賀ニ移テ。使者ヲ安土岐阜へ献ジテ謝ス。

八月信長太坂へ赴テ。佐久間信盛々數年大坂ヲ攻テ。功ナキヲ怒テ。其所領ヲ沒收ス。十一月紫田勝家加賀ノ一揆ヲ平ク。同月菊亭躉季内府ヲ辞ス。近衛大納言信基内府ニ任ス。

九年正月秀吉播州姫路城ヲ築ク。二月信長上洛。禁裏ノ前馬場ヲ構テ。馬齋カイアリ。主上覗覽。同月越後長尾景勝。越中三出張。佐々内藏助成正等。コレヲ拒ケ。景勝退ク。三月遠州高天神城没落。甲州ノ兵多々死ス。其首トモ濱松ヨリ安土ヘ遣サル。四月允条兼孝閑白ヲ辞ス。一条内基閑白ニ任ス。十月秀吉因幡鳥取城ヲ攻落ス。十一月秀吉安土ヘ参向。

十年正月宇喜田直家死ス。秀吉其趣ヲ信長ニ申テ。直家カ子秀家幼少ナリト云也。遺跡相續ス。二月近衛前閑白前久太政大臣ニ任ス。同月武田勝頼信州へ進發。木曾ヲ攻木曾義昌加勢ヲ信長ニ乞信

長許諾。信長ハ兵七万ヲ率テ。伊奈ニ向ヒ。信忠ハ五
万人ニテ木曾ヘ向フ。家康公三万人ニテ。駿河ヘ御
出張。北条氏政モ関東口ヘ加勢ヲ發ス。信忠。信州處
々ニテ。勝頼ト合戦。勝頼敗テ。甲州新府ニ退。勝頼カ一族
穴山梅雪等降參ス。其外一族即從皆分々散ス。信易高
遠城モ没落ス。三月。信忠諏訪ニ到ル。家康公ノ兵穴
山梅雪ヲ案内者トシテ。甲州ヘ攻入。勝頼新府ヲ落テ。
都留郡内一赴キ。家人小山田左兵衛ヲ憑シ。土斯。小山
田拒テ不納。勝頼田野ノ天目山ニ隠ル。相從者皆
落失。又信忠甲府ニ入テ。瀧河一益。河尻肥後守ヲシテ。
天目山ヲ攻シ。勝頼并其子信勝等。曾日嘗。勝頼歳三
十七。信勝年十六。其餘黨皆殺サル。其後信長諏訪
ヘ到着。上野國。并信州ノ内佐久。小縣。一郡ヲ。瀧河一
益。三賜テ。関東ノ管領ト。入駿河國シバ。一家康公ヘ進セ
ラル。甲州ヲハ。河尻ト。穴山ト。三分アタフ。信州數郡。諸士ニ
分テ。恩賜ス。四月。信長甲府ヘ赴キ。駿ヲ經テ。東海道
ヨリ安土ヘ返ル。五月。信長。土佐伊豫讃岐阿波ヲ。三
男ニ。七郎信孝ニ授テ。丹羽長秀等ヲ副テ。發向セシム。
同月。家康公安土ヘ入御。信長ニ御對面。明智光秀
ヲシテ。馳走セシム。此時秀吉備中冠城ヲ攻テ。毛利輝
元ト對陣レ。加勢ヲ乞。信長。池田信運。明智光秀等ヲ
シテ。發向セシム。同月。家康公御上洛。直ニ。泉堺ヘ渡
御フリ。信長。毛上洛。六月朔日。信長本能寺ニ寄。宿二
日。黎明。明智日向守光秀謀叛レ。俄ニ。本能寺ヘ寄

來信長近臣森蘭丸等以下戦死。信長火ヲ放テ自
害。年四十九。信忠ハ妙覺寺ニ宿。本能寺へ赴シトス。
火ノアガルヲ見テ。信長己薨^{スヨウ}スルヲサトリ。一条御所ニ
入。此御巫ニハ誠仁親王并若宮ノヲハセシラ。所司代
村井春長カ、カラニニテ。俄ニ禁中へ行啓ナシ奉ル。光
秀來テ。二条ヲ攻破。信忠自害ス。年九八。村井春長
等以下討死者多シ。光秀威ヲ洛中ニ振ヒ。地子錢ヲ
ルニテ。町人ヲ懷ク。光秀安土へ赴テ。財宝ヲ奪取テ。家
人三分マタエテ。既洛。家康公泉堺ヨリ入洛。光秀
フ討シト議ス。然レドモ御家人ノ諫ニヨリテ。直ニ遠州
へ御帰。既度穴山梅雪供奉シケ。古路次ニ手て揆
ニ害セラ。秀吉ハ備中ニテニレラ聞テ。冠城ヲ攻取テ
毛利ト和睦ヲ約。播州姫路へ皈リ。尼崎へ到テ織田
三七信孝。舟羽長秀。池田信輝。并高山右近。中川瀬
兵衛等ヲカタラヒ入洛ス。十三日。山崎ニテ。光秀ト一戦
大ニ勝。光秀勝竜寺へ入テ。夜中ニ伏見小栗栖ヲ過ルト
キ。野伏ノタメニ害セラル。明智左馬助坂本城ニテ自害。其
黨皆平ノ。其後柴田修理亮。勝家。羽柴築前守秀吉。池
田信輝^{ノ号ス}。丹羽五郎左衛門長秀等相談。信忠
ノ子三法師ヲ主君ト。少ノ間ハ信雄ヲ名代。少安
土ニ居レ。信雄ニ尾張ヲサツチ。信孝^{ノ子}。美濃ヲサヅケ。
其外ノ関國。關所ハ勝家秀吉等ノ老臣分取テ歸国。
秀吉ハ上洛。瀧河^ヲ益ハ上野國三。信長ノ事ヲ聞
テ。既霞野へ出張。既三条氏政ト一戦。其ヨリ東山

道を經て尾張長嶋城へ帰ル。又其比甲州騒動ノ。河
尻殺サル。家康公甲府へ入御。北条氏直來テ。甲州
爭。新府主戦氏直敗テ帰ル。信濃モ亦家康公ニ從
ヒ奉ル。十月秀吉足従五位下ニ叙。右少將ニ任ス。秀
吉奏聞。信長ニ太政大臣従一位ヲ贈リ。大徳寺ニテ
葬札ヲ修シ。惣見院十号ス。十一月織田信孝柴田勝
家ト通。信雄秀吉トア滅^ス。秀吉美濃ヘ發向越
前雪深^ス。勝家来救コトアタハス。信孝和睦ヲ乞。秀吉
坂陣ヨリ勝家秀吉相爭フ。勝家ガ姪柴田伊賀守
勝家ヲ皆テ秀吉ニ従フ。十二月秀吉安土ニ赴テ。幼
君ニ謁ス。

十一年正月秀吉江州ニ出張。三月志津獄ノ邊ニテ。

勝家ガ姪佐久間玄蕃盛政ト對陣。四月信孝入勝家
ニ應ス。秀吉美濃ヘ赴ニトス。盛政進テ。秀吉ノ將中川
瀬兵衛清秀ヲ攻殺ス。秀吉軍ヲカヘシテ。盛政ト志津嵩
柳瀬ニテ合戰。勇士七人先懸^ス。秀吉繼テ進ム。盛政敗
軍ノ執ル。勝家ガ兵威大ニ襄フ。秀吉勝ニ乗テ。越前ヘ
攻入。勝家ガ居城北庄ヲ圍ム。勝家自害ス。秀吉美濃
へ赴テ。信孝ヲ攻信孝遂ニ討レヌ。五月秀吉畷洛渾
川一益降^ス。參ス秀吉參議ニ仕レ。従四位下ニ叙ス。攝
州大坂城ヲ築キ移居。今年筑紫三万。鳴津義久上。
龍造寺隆信。肥前有馬ニテ合戰。隆信討レヌ。義久
久コレヨリ威ヲ九州ニ振テ。豊後ノ大友ト相戰。義久
剃髪シテ龍伯ト号ス。

十二年三月。織田信雄ト秀吉ト不和。秀吉先、辻田勝入、森武蔵守長一等ヲシテ尾州へ向シメ。秀吉モソシキテ、逸翁信雄加勢ヲ。家康公ニ乞ル。即御進、簽小牧山三陣レターフ。秀吉樂田二陣ス。四月九日、長久手合戦。秀吉ノ姪秀次敗軍。池田勝入父子、森長上討死シテ。家康公大勝利ヲ得タシ。五月、秀吉兵ヲ引テ、美濃へ退ク。七月、蟹江合戦。瀧川一益没落ス。秀吉酒農州ヨリ、岐阜家康公濱松へ還御。十月、信雄秀吉和睦。

十一月、秀吉大納言ニ任シ。從三位ニ叙ス。十二月、一条内基閑白并左府ヲ辞ス。一条右府昭實左府ニ任ス。十三年二月、一条招貫閑白ニ任ス。三月、昭實左府ヲ辞ス。近衛信基左府ニ任ス。菊亭晴季右府ニ任ス。秀

吉内大臣ニ任レ。正二位ニ叙フ。秀吉元來其姓氏詳ナラス。信長平氏タルニヨリテ。秀吉モ平氏ノ称ス。是ニ至テ。藤原姓ト称ス。菊亭晴季懇遇せラヒ。傳奏トナリテ。朝廷ノ事ヲ預リ議ス。同月、秀吉紀州へ進發シ。根来寺ヲ破却ス。四月、秀吉高野山制法ヲ定ム。其後秀吉ノ弟秀長ト。姪秀次トヲ遣レ。四國平均。七月、秀吉征夷將軍ニ任セラシコトヲ望ム。義昭族譜ヲ賤シジテ同心せズ。秀子トナラシコトヲ望ム。義昭入道昌山ニ請テ。養吉スナワチ菊亭晴季ト議シテ。一条閑白昭實ヲシテ辞退セシメテ。秀吉閑白ニ任レ。從一位ニ叙ス。參内ノ時、信雄秀長秀次前田利家浮田秀家扈從其外諸

太名典奉昭宣公ヨリ以来。藤原ノ嫡流ニアラズレテ。
他姓ノ人ノ閨白トナルコト。是ラヘ始トス。秀吉新ニ姓ヲ改
テ豊臣ト称ス。其丁族皆豊臣姓ヲ用フ。他族ト云トモ恩
顧深ケレバ。豊臣姓ヲ賜フ。同年。秀吉越中能登へ進發
ス。佐々内蔵助成政降参ス。同年。秀吉ノハカラニテ。
信雄ノ使者羽柴下總守。遠乃瀬瀬松ニ來テ。家康公
御上洛ノ事ヲス。ム御許容ナシ。

十四年二月。家康公參議ニ任。従三位ニ叙レタ
テ。去スル永禄九年。從五位下參河守タリ。ヨリ以来。
御官位ノ次第ト、コホラス。公卿ニ昇進レタマフ。此春
羽柴下總守再瀬瀬松へ來テ。御上洛ノ事ヲ申ス。御許
容ナシ。五月。閨白豊臣秀吉ノ妹。遠乃瀬瀬松へ入テ。

嫁娶ノ議アリ。七月。誠仁親王薨ス。陽光院ト謚レ
太上天皇ノ尊號ヲ贈ラル。九月。秀吉ノ母太政所
參州岡崎へ來テ。人質トナルコレニヨリテ。家康公御
上洛。大坂城ニ秀吉ニ御對面。十月。家康公中納
言三任ニ任ス。家康公御坂城。秀吉ノ母坂京。十一月
七日。主上御位ヲ堅孫周仁親王三讓リタマフ。是ハ陽光
院ノ御子ナリ。二十五日。御即位アリ。後陽成院是ナ
リ。十二月。閨白豊臣秀吉太政大臣ニ任ス。正親町
院治世ノ年号ハ。永禄十二年。元龜三年。天正十
四年。合二十九年ニシテ。讓位ニシケテ。太上天皇ト申
奉ハ七年スキテ。文禄二年正月五日崩ス。御歳七十

一トカヤ。秀吉ハ天正十五年、筑紫ヘ發向シ。嶋津義久
降参ニテ九州悉平ス。コレヨリサキニモ利輝元ハ既ニ叛
服レスレバ、中國ハ早^ヒレヅマル。長尾景勝モ上洛シ。北國モ
從ヌ。十六年四月ニハ聚樂亭^{アソブ}ヘ行幸ヲ成奉リ。繁榮ヲ
キハメ。十八年三関東ヘ進發シ。小田原城ヲ圍^{カミ}テ、北条
氏政自害。氏直降参ニ。其勢ニテ、陸奥出羽ニテ打十ニ
ク。應仁ノ乱ヨリ以来、六十餘州始テ一統ス。文祿元
年ヨリ、朝鮮征伐ノ事ハジエリテ。武名ヲ大明國ヘホ
ドコレテ。慶長二年八月十八日享^{キサ}年六十二。伏見城
ニテ薨セラル。同五年九月濃州関原ノ戰ニ凶賊
滅^{ハシム}レテ。天下ニトクク。家康ハムニ歸服シ。太平ヲ
唱^{ハシム}ヘ武德尊^ノ廟^ノス。メタカリケル御伐、猶萬々世

ニ至ルベテ。天地ト共ニ長久ナルベレ。

日本王代一覽卷七終

日本王代一覽自 神武天皇至
正親町院共七帖應若狹國主從四
品左少將源忠勝朝臣之求考國史
小說等刪其繁提其要而新撰之以
呈焉

慶安五年壬辰五月吉日

法眼春齋林恕

春秋之記事也必表以年而繫時繫月繫日然後始備後之作史者皆法焉近日春齊林法眼編輯王代一覽亦每標年月以繫事于其下百世事迹大要可觀焉頃者欹劂氏偷贍其稿妄填其所闕而年月溷亂譌加訓點而大害義意只要以損其價專射其利而已今也書林村上氏取法眼元稿詳定亥未表年揭月正謬補脫以行于世購者證此求焉則庶幾知分涇渭而一覽炳人然矣

寛文三年秋七月

心耕隱客書

東京書林

湊原屋茂兵衛
山城屋佐兵衛
岡田屋嘉七

出雲屋文次郎
菱屋孫兵衛

敦賀屋九兵衛
秋田屋太右衛門
河内屋茂兵衛

道脩町壹丁目

内田屋惣三郎版

浪花書林

